

平成27年第1回吉岡町議会定例会会議録第4号

平成27年3月11日（水曜日）

議事日程 第4号

平成27年3月11日（水曜日）午前9時30分開議

日程第 1 一般質問（別紙一般質問表による）

日程第 2 議案第36号 平成26年度吉岡町一般会計補正予算（第9号）

（提案・質疑・付託）

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（16人）

1番	飯島衛君	2番	金谷重男君
3番	岩崎信幸君	4番	平形薫君
5番	山畑祐男君	6番	栗田俊彦君
7番	宇都宮敬三君	8番	馬場周二君
9番	石倉實君	10番	小池春雄君
11番	岸祐次君	12番	小林一喜君
13番	神宮隆君	14番	齋木輝彦君
15番	南雲吉雄君	16番	近藤保君

欠席議員 なし

説明のため出席した者

町長	石関昭君	副町長	堤壽登君
教育長	大沢清君	総務政策課長	森田潔君
財務課長	小渕莊作君	町民生活課長	大井力君
健康福祉課長	福田文男君	産業建設課長	富岡輝明君
会計課長	守田肇君	上下水道課長	南雲尚雄君
教育委員会事務局長	大澤弘幸君		

事務局職員出席者

事務局長 大井隆雄 主任 青木史枝

開 議

午前9時30分開議

議 長（近藤 保君） おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

ただいまの出席議員は16名で、定足数に達しております。

本日の議事日程はお手元に配付してあります議事日程（第4号）により会議を進めます。

あらかじめ皆さんにお伝えしておきます。

本日で東日本大震災から4年がたちました。震災の起きた時刻と同じ午後2時46分になりましたら、追悼のため黙禱をささげたいと思います。その時刻になりましたら休憩宣言をいたします。その際にはご協力をお願いいたします。

本日は3人の通告者の一般質問を行います。

日程第1 一般質問

議 長（近藤 保君） 日程第1、一般質問を行います。

3番岩崎信幸議員を指名します。岩崎議員。

〔3番 岩崎信幸君登壇〕

3 番（岩崎信幸君） 通告に従い、一般質問を行います。

まず、学童クラブのことです。

先日、県子育て支援課によりますと、放課後児童クラブは2009年には347施設、利用者は1万6,232人だったのに対し、昨年5月には424施設、利用者も1万8,604人まで増加した。県内の320学区のうち298学内で設けられたと公表いたしました。5年間で22%も増加したとのことです。町におきましても人口が急増している中、共働き世帯や仕事をする女性がふえております。利用価格も安く安全なため、学童クラブへの入所者がふえてまいります。また保護者や学童の要望も多くなっております。

その中で私が問題にしたいのは、聞くところによりますと27年度には各学童クラブは入所者が急増すると伺っております。それに対しまして町では施設をふやすのか、また保育園、幼稚園、児童館などの施設に協力を仰ぐのか等、方法はいろいろあると思いますが、今後の方針をお答えください。

議 長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町 長（石関 昭君） 皆さん、おはようございます。

本日は3人の方より質問をいただくわけですので、誠心誠意、答弁をさせていただきます。

先ほど議長が申し上げたとおり、きょうは3月11日いわゆる3・11、1446ということで、これは忘れることのできない数字ではないのかなというようにも思っております。月日のたつのは早いもので、はや4年がたったということで毎日のようにテレビ、新聞等で報道されておりますが、まだまだ復興半ばというようなことでございます。この日はあの4年前、震災が起きた3日から4日後だったと思います。我が吉岡町でも相馬市のほうに支援物資を持って3人の職員が、議会の承認を得ながら援助を持っていった。その様子を帰ってきて聞きましたら、まさに戦場だというようなことでもありました。これからも吉岡町にできることはしていきたいというように思っております。皆様方の特段のご協力をお願いするものであります。

さて、今岩崎議員のほうから質問をいただきました。学童クラブの今後はこの質問に答弁をさせていただきます。岩崎議員の言われたとおり、平成26年度の今現在の利用者が205人おります。平成27年度の学童への申し込みが266人と急増をしております。昨年実施した子ども子育てのニーズ調査でも、高学年を含め多くの保護者が利用したい意向がありました。調査の結果どおりの学童への申し込みとっております。明治・駒寄・中央での全体の定員は285人ですので、まだまだ多少の余裕はありますが、今後も施設の検討が必要とっております。保育園の協力なども検討内に入れ、包括的な検討をした中で進めてまいりたいと考えております。

議長（近藤 保君） 岩崎議員。

〔3番 岩崎信幸君発言〕

3番（岩崎信幸君） よろしく検討をお願いします。

次の質問にまいります。次に八幡山グラウンドの整備及び拡張についてでございます。

2020年、東京オリンピック、パラリンピックや札幌市の冬季オリンピック招致など、国内開催への期待とともに選手の育成に国などの支援を求める声が多くなっております。そこで国は、ことし10月にスポーツ庁を設置することになりました。そして第2のナショナルトレーニングセンターを建てて施設の充実を図り、トップアスリートの育成、ジュニア期からの選手の育成、経済的な支援など施設施策の充実を図ると表明いたしました。国民のオリンピックへの期待が高まっております。

そこで我が町はどうでしょうか。残念ながら八幡山グラウンドの拡張計画では、スポーツ施設としては十分満足がいくとは私は思えないのです。オリンピックに選出される選手を育てようと思うならば、最低でも野球とサッカーの公式試合が同時に行えるようにすることはできないでしょうか。どうしても無理ならば別の場所に施設をつくれなにかと思うのですが、よいお答えを希望いたします。

また、1月15日に前橋市、渋川市、吉岡町、榛東村の4市町村合同による2020年

のオリンピック、パラリンピックでのキャンプ地誘致などに取り組む研究会を発足させたそうです。そして2月24日に4市町村長の会談が開催されたそうですが、どのような調査研究が進められるのか説明を求めます。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 八幡山グラウンドの整備及び拡張について答弁させていただきます。

八幡山グラウンドを拡張するに当たっては、より使い勝手のいいグラウンドにするために、多くの皆様から意見をお伺いすることで自治会、学校、PTA、議会、体育協会、スポーツ推進委員会、文化協会の代表者による研究懇談会を立ち上げさせていただきました。研究懇談会ではいろいろな観点から協議をしていただき、結果として小中学生から高齢の方まで、より多くの町民の皆様が気軽に利用でき、多目的に活用できる運動広場とすることになりました。野球場、サッカー場、1周200メートルのトラック、100メートル直線7レーンのほか、安心してウォーキングやジョギングなどができる4メートル幅の1周約580メートルの外周コース、トイレ、水飲み場などの休憩スペース、駐車場、駐輪場なども設置し、時にはイベントなども多目的に活用できるよう整備するというものであります。

面積は現在1.5ヘクタールですが、約2倍の3.2ヘクタールとなります。岩崎議員の言われるような野球とサッカーの公式試合が同時にできる広さは残念ながらありませんが、練習でしたら同時にできますし、公式試合の日程を調整することなど工夫次第で有効に活用できるのではないかと考えております。限られた広さの中で最大限の効果を出すべく、研究懇談会の皆さんが知恵を絞っていただきました。研究懇談会の皆さんに感謝を申し上げるとともに、その結果について尊重させていただきたいと考えております。

野球とサッカーの公式試合が同時に行うことができなければ別の場所に施設をつくれないうことですが、現段階では別の場所に施設をつくることは考えておりませんので、ご理解をいただきたいと思っております。

それから、1月15日に前橋市、渋川市、吉岡町、榛東村の4市町村合同による2020年の東京オリンピック、パラリンピックでの誘致活動などに取り組む研究会を発足させたそうですがとの質問であります。答弁させていただきます。

この研究会は東京オリンピック等、国内で開催される大規模なスポーツイベントにおけるキャンプ地を誘致しようと前橋市の呼びかけで、調査研究を連携して行うことを目的に発足されました。先月24日には関連市町村長による会談が行われ、1つとしてキャンプ地誘致行動の調査研究、2つ目といたしまして各自治体のかかわり方に関する調査研究、3番目といたしまして誘致活動がもたらす利益や効果などについての調査研究、そして4

番目にオリンピック誘致を契機とした連携イベントの研究等について、連携して取り組んでいくことを確認しました。吉岡町にはこのような規模の選手団や応援団を受け入れることが可能な施設はありませんが、町としてどのような応援ができるか、この研究会の中で検討していければいいと考えております。

議長（近藤 保君） 岩崎議員。

〔3番 岩崎信幸君発言〕

3番（岩崎信幸君） ありがとうございます。なるべく町としても競技施設の充実を図っていただきたいと思うわけでございます。

次に3番目でございますが、道の駅よしおか温泉のことでございます。前橋市議会第4回定例会で道の駅の設置について質問がされました。質問に対して市長は、平成28年度に全線開通予定の上武国道に、活用手段として道の駅を田口町に、平成32年度のオープンを目指して設置する、その道の駅は、川場村の田園プラザを参考にし、特性を持つ農産物を直売し、製造・販売を行う特産物の店を構え、付加価値を持つ商品の充実を図り、前橋の魅力を発信する拠点として4つの道の駅の相乗効果を発揮できるよう充実させていきたいと答えました。さすがに田口町ではよしおか温泉に近過ぎますし、規模も特性も田園プラザ並みとなりますと、よい影響もあるとは思いますが、大分悪い影響のほうが少し多いかなと私は感じるわけでございます。それに対して、まずは道の駅の設置に対してどのように判断しているか。また、これからよしおか温泉への対処はどのように考えているかをお尋ねします。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 答弁をさせていただきます。

道の駅よしおか温泉は、県内20番目の道の駅として平成22年にオープンいたしました。現在、群馬県内の道の駅は30駅ございまして、ご紹介の田園プラザ川場等、先発の道の駅のリニューアルが行われ、新設の道の駅も相次いで設置されているのは皆さんもご存じのとおりだと思われま。近いところでは道の駅こもちが改装中で、この4月には玉村町にも道の駅がオープンをします。

道の駅よしおか温泉への考え方については、平成24年第2回定例会では「情報発信機能がメインである（山畑議員の一般質問）」とお話をさせていただき、平成25年第2回定例会ではハード面の整備は未定であるとお話をさせていただきました。今もハード面についてはいろいろな要望があることは聞き及んでおりますが、既存の施設の有効活用をしっかりと進めることも重要であると認識をしております。

例えば、昨年の4月に漆原さくら里親の会の祭りとしてテレビ等のマスコミを利用し、

吉岡再発見ウォークを同時開催したところ、4月の月間利用者数が前年対比30%増を記録いたしました。このようなソフト面の充実について、道の駅にかかわる皆さんの創意工夫にも期待をしているところでもあります。

議長（近藤 保君） 岩崎議員。

〔3番 岩崎信幸君発言〕

3番（岩崎信幸君） それでは、道の駅の2問目にまいります。

国土交通省は、道の駅を地方創生の核として位置づけ、全国1,040カ所から地域活性化の拠点として特にすぐれた6カ所を選定し公表しました。その中に川場田園プラザが入っているわけでございます。最大の影響力を持つ川場田園プラザを参考にするということは、大衆全般の集客はもちろん、ファミリーにも焦点を合わせていると思います。これに対抗して天神東公園と緑地運動公園をファミリー向けに整備して集客を促したらよいと思うのですがどうでしょうか、お答えください。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君発言〕

町長（石関 昭君） この件に関しましては、課長より答弁をさせます。

議長（近藤 保君） 富岡産業建設課長。

〔産業建設課長 富岡輝明君発言〕

産業建設課長（富岡輝明君） 全国モデル道の駅は3部門6カ所が選定され、地域外から活力を呼ぶゲートウェイ型として観光総合機能を持つ3つの駅が選定され、その中の1つが川場田園プラザになっております。そのほかの2部門は、地域の元気をつくるセンター型として産業振興機能の2つと防災機能を持つ駅が1つ選ばれております。

川場田園プラザは、広い敷地を生かした飲食店配置で会場内での周遊性を持たせたほか、ピザやアイスクリームといった加工品、またゆきほたかに代表されるお米の新ブランドの立ち上げなど、いろんな企画で集客を図っております。ほかの2つの駅につきましても、道の駅もてぎはエゴマとユズ、また真岡鉄道のSL運行に合わせたイベントなどで集客を図り、道の駅とみうらにおかれましては特産品のビワを利用したオリジナル商品ということで注目を浴びております。観光バスのターミナル化などの観光パッケージ事業に乗り出した事例としてそのような形で知られております。このように、先進事例は核になる魅力をつくり出してから、それに見合った施設を考えるという手段をとっているということがわかります。吉岡町でもじっくりと売り出す魅力のある資源を見つけて育てていくことが必要であると考えております。

また、議員ご指摘の本地区には、自然に恵まれ温泉施設と道の駅を核にして、利根川のせせらぎを聞きながら温泉の南には水辺に親しむことのできる天神東公園、さらに自然エ

ネルギーパーク、また天神東公園内には蛍の里があり、ほたる祭りが開催され、毎年にごわいを見せており、このイベントは天神東公園の存在を多くの方々知ってもらいたい機会にもなっております。また、隣接する緑地運動公園内にはパークゴルフ場を初め3種類のゴルフが楽しめるゴルフ場を備え、多くの方に利用していただいております。さらに利根川沿いを走るサイクリングロード、その沿線の桜並木とそれぞれ季節の顔が楽しめ、散策やレクリエーションに適した環境を整えております。

都市計画マスタープランでは、本地区を自然景観を生かした公園・緑地地区と位置づけておりますが、この恵まれた自然環境・景観を生かしながら、ファミリーを含め訪れる誰もが気持ちよく利用していただけるために、課題等を抽出し、訪れる皆様のご意見等をいただきながら、集客を促す仕掛けを考えていきたいと考えております。

議長（近藤 保君） 岩崎議員。

〔3番 岩崎信幸君発言〕

3番（岩崎信幸君） これもまた努力をお願いするわけでございます。

次に移ります。4番目でございますが、平成25年第2回定例会で質問しましたように、商業推進派の私としては駒寄スマートインターを生かした商業系企業の誘致には大賛成であります。税収の確保と若者や女性の雇用機会の拡大など、活気あるまちづくりには町民の生活に直結している商業の発達が必要であります。吉岡バイパスと南新井前橋線バイパスの交わる地域の開発は最も望まれるところです。商業におきましては集客が当然、一番大事なことでございます。大型店舗1軒の集客も大きいのでございますが、やはりまとまった地域での多種多様にわたる店舗展開が魅力ある集客エリアとして必要ではないでしょうか。

先日、駒寄スマートインター周辺の土地利用方針について説明を受けましたが、私としてはもっと商業系の企業誘致をするエリアを広げてもよいと思うのでございます。午王頭川周辺や吉岡バイパス西側には自然地が残っており、十分開発するスペースがあります。平成29年度スマートインターの大型化に伴い、さらに発展する吉岡であります。町の方針はいかがでしょうか、お尋ねします。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 商業振興について、商業エリアの拡張をということで答弁をさせていただきます。

私は本年度、学識経験者、県庁の課長、住民代表などからなる吉岡町土地利用方針検討委員会を設置いたしました。20年、30年先の将来を見据えた町全体の土地利用の方針を検討していただきました。そして、1月の終わりにはその検討結果を答申として受け取

ったわけであります。私はこの吉岡町を調和のとれた住みよい町にしていくため、今回の答申の内容を最大限尊重し、今後、土地利用の規制や誘導を適切に進めてまいりたいと考えております。今回の答申には住宅地、商業地、工業地などについてそれぞれのあり方が示されておりますが、議員お尋ねの商業地のあり方に関しましては、まず第1にまとまりを形成すること、第2に吉岡バイパス沿いに大型店舗が集中している前橋境の地区を中心となる商業地と位置づけること、そして第3に駒寄スマートインターチェンジの東側に商業系企業を誘致するエリアを設定することが示されております。

この商業系企業を誘致するエリアをもっと広げてもよいのではないかとのお尋ねであります。このエリアの範囲につきましては既存店舗と一体となった商業地のまとまりを形成することを重視するとともに、住宅地との混在による生活環境、業務環境の悪化を防ぐことなどを総合的に勘案して、適切な規模で設定していただいたものと認識をしております。町といたしましては、多くの町民が日常的な買い物をしている中心となる商業地とともに、駒寄スマートインターチェンジの東側に新たな商業地のまとまりを形成できるよう、今後、土地利用の規制と誘導に取り組んでまいり所存であります。

議長（近藤 保君） 岩崎議員。

〔3番 岩崎信幸君発言〕

3番（岩崎信幸君） これも努力をひとつお願いするわけでございます。

次に2番目でございますが、28年度に上武道路が全線開通いたします。当然ながら人と車の往来が多くなるのでございますが、その好条件を逃がす手はないと思うわけでございます。前橋市が田口町の上武国道沿いに道の駅をつくるのに対抗しまして、道の駅よしおか温泉周辺と上武道路沿線の整備・開発をすべきと思いますが、お答えください。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君発言〕

町長（石関 昭君） この件に関しましては、担当課長より答弁をさせます。

議長（近藤 保君） 富岡産業建設課長。

〔産業建設課長 富岡輝明君発言〕

産業建設課長（富岡輝明君） 道の駅よしおか温泉周辺整備につきましては、先ほどの答弁と重複する部分もありますが、全国モデル道の駅に選定されました道の駅川場田園プラザ等、核となる産品や魅力をつくり出してから、それに見合った施設を考えるとということ先ほど紹介させていただきました。吉岡町でもじっくりと売り出す魅力ある資源を見つけ、育てていくことが必要と考えております。今でも30万人を超える集客がある施設でございます。しかし、周辺に類似施設の建設が進みますと、ここでしか楽しめない体験、あるいはここでしか味わえない味覚が提供できればということで、いずれお客さんが幾らいい施設をつ

くりましても飽きてしまうような、また他の施設へ行ってしまうようなことがあると困る事態となってしまいます。今の場所と環境を生かした施設運営のあり方と、それを担っていく人材を育成していくにはどうしたらよいかということで、今後さらに検討を進めていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

議長（近藤 保君） 岩崎議員。

〔3番 岩崎信幸君発言〕

3 番（岩崎信幸君） 次にまいります。

先ほど町長が冒頭の挨拶で、本日、東日本大震災から4年ということで述べましたが、私もここで、さっきも申しましたとおり防災のことでございます。死者が1万5,891人で、今なお行方不明者が2,584名おります。まことに痛ましい事故で哀悼の意を表したいと思うわけでございます。

そして、また昨年は自然災害が世界におきまして未曾有の被害をもたらしたわけでございます。吉岡町もいつどき地震・豪雨による土砂災害や噴火が起こるとも限りません。そこで、きのう山畑議員が質問されましたが、再度このことに関しましては重要なことと考えておりますので、そこで南下城山防災公園が防災に対して重要な役割を果たすわけでございます。当初29年度の完成予定が30年度に延びた理由と、進捗状況を再度お教えください。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 南下城山防災公園の進捗状況について、当初29年度の完成予定が30年度に延びた理由と進捗状況はとのご質問ですが、これにつきましてはこれまでも何度かお話をしてきたかと思っております。防災公園整備に限らず、町ではいろいろな事業を抱えており、計画的に事業を進めていくときに、私は単年度の事業費の負担をなるべく軽減すべくと考えております。そういうことから、防災公園につきましては毎年5,000万円程度の支出にとどめたいと考えております。事業完成まではまだ年数はかかると思いますが、事業を計画的に実施していきたいと考えておりますので、ご理解を願います。

また、事業の進捗状況のご質問ですが、昨日の山畑議員のご質問でもお答えをしましたが、平成24年度から現在までの事業の進捗率といたしましては、事業費ベースですがおむね30%となっております。

議長（近藤 保君） 岩崎議員。

〔3番 岩崎信幸君発言〕

3 番（岩崎信幸君） 山畑議員にきのう大分細かく説明がありましたので、重複も避けたいと思っておりますので、いろいろありますがこれは控えさせてもらって、2番目の問題にまいります。

高渋バイパスと防災公園とのアクセス道路でございますが、人や物品を運び、安全を確保するのにどうしても必要と思うわけでございます。どのような計画で進めているか、お答えください。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君発言〕

町長（石関 昭君） この件につきましては、担当課長より答弁をさせます。

議長（近藤 保君） 富岡産業建設課長。

〔産業建設課長 富岡輝明君発言〕

産業建設課長（富岡輝明君） 高崎渋川線バイパスから南下城山防災公園へのアクセス道路についてのご質問ですが、町では高崎渋川線バイパスの工事に先駆けて県と設計協議を行っております。その中でバイパスと接続する町道路線も当然検討の範囲の中に入っております。そして、県にはこの検討結果を踏まえて高崎渋川線バイパスと町道との交差部を配置して工事を進めていただきました。町においても宮田大藪線など、バイパスと接続する町道の整備を進めておりますが、ご質問の高崎渋川線バイパスから防災公園へのアクセス道路につきましても、住1号線ということで拡幅工事を平成23年度に実施をしております。

議長（近藤 保君） 岩崎議員。

〔3番 岩崎信幸君発言〕

3番（岩崎信幸君） 南下城山防災公園に関しましては、先ほど述べましたように重要な防災拠点でございます。なるべく早く実行して地元の人のために役立ってほしいと思うわけでございますので、なるべく早い進捗計画の実行をお願いするわけでございます。

さて、6番目でございますが、安倍首相はみずからの成長戦略アベノミクスの柱として女性の指導的地位の占める割合を2020年までに30%に高め、女性の力を伸ばす環境の整備を行うとしております。しかし言葉だけでは男女共同参画、機会均等を掲げても達成できるものではないのが現状であります。そこで、ダイバーシティの理念のもとクォータ制で推進するのが解決の方法と思うわけでございます。女性が輝けるよう導入を求めるものでございますが、お答えをお願いいたします。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） クォータを導入してはどうかということで答弁をさせていただきます。

クォータ制とはということで私が説明するまでもなく、雇用や議員選出などの際に、人員構成に性別などによる偏りが生じないように、一定の比率を定めて行う割り当て制度ということだそうでございます。吉岡町でも附属機関の女性委員の構成比率目標を30%以上とすることを目標にしております。平成26年4月1日時点で附属機関の女性構成比率

は9%ですが、附属機関に類似する機関の女性構成比率は29%となっており、今後も女性の構成比率を高めるように取り組んでいきたいと思っております。

議長（近藤 保君） 岩崎議員。

〔3番 岩崎信幸君発言〕

3番（岩崎信幸君） 昨年ちょうど1年前、この問題を質問したわけですが、なかなか男女共同参画、機会均等というものは難しい問題でございます。特に日本の風土にしましてはなかなか受け入れがたいところがあるわけですが、私も前も人権関係の要職をやったわけですので、これに関しましてはある意味これからの社会のためにも発展する状況があるのではないかと思うわけですので、ぜひぜひ進めていっていただきたいと思うわけですので。

最後になってしまいましたが、昨年、明治小学校周辺にゾーン30が設定されました。適切な効果が上がっていると思われまます。そして私も議員になって当初からお願いした一つの改良点でございますが、明小・北発地岡線の拡幅でございます。26年度に調査費として計上されましたが、その後の予定を知らせていただきます。よろしくお願ひします。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 明治小学校の北側を東西に走る明小裏線と改良済町道の北下集会所北線を結ぶ明小・北発地岡線の拡幅についてご質問をいただきました。以前よりこの町道路線の安全性を問われており、町でも測量調査等を実施し、改善に向けて事業に着手しましたが、諸般の事情で一時中断をしている状況であったことは、過去の議会の一般質問でも答弁をさせていただきました。その間、平成25年3月末に高崎渋川線バイパスの2期工区が全線開通し、バイパスへのアクセス等で本路線を利用する車両もふえたことから、安全性確保は緊急課題でもありました。町でも安全対策を模索していましたが、このたび関係皆様のご協力を得られる見通しがつきましたことから、今年度、調査費を計上して改めて事業に着工しています。今後の予定であります、平成27年度には用地買収を予定しており、平成28年度以降、工事を実施していきたいと考えております。

議長（近藤 保君） 岩崎議員。

〔3番 岩崎信幸君発言〕

3番（岩崎信幸君） それを聞いて安心した次第でございます。先ほど町長が申しましたように、ずっと前からの懸案事項でございました。何とか私もこれに対して当初から要望していた次第でございます。28年度工事を始めるということでございますので、私としても一安心した次第でございます。それに関してはよろしくお願ひ申し上げます。

以上で終わります。

議 長（近藤 保君） 以上をもちまして、岩崎信幸議員の一般質問が終わりました。

ここで休憩をとります。再開を10時40分とします。

午前10時11分休憩

午前10時38分再開

議 長（近藤 保君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

議 長（近藤 保君） 2番金谷重男議員を指名します。金谷議員。

〔2番 金谷重男君登壇〕

2 番（金谷重男君） 通告に沿って町議会議員として最後の一般質問を行います。

今回が16回目となります。町政への道筋を立てる提案ができればと思い登壇しました。

さて、私の祖父はエツジといいます。もう亡くなっておりますが、明治生まれの頑固者で曲がったことが大嫌い。雨の日には地域の人たちが集まって、たばこ屋をしておりましたので、道先で談笑するその輪の中におりました。吉岡町が誕生前後の教育関係の町の役職をしていたと聞きます。現職で他界し、町で葬儀もしていただきました。そのころの話を町の年かさの人から聞くことがあります。明治と駒寄が合併する直前に、明治の学校が火災で建てかえのために多額の借金があり、合併が難航したとのこと。当時はそれほど裕福じゃない、当時とすれば普通なのかもしれないけれども、今から見れば貧乏な村だったのかなど、無駄は許されなかった。エツジさんは村の子供の教育のために頑張っていたよと、戦後は子供がふえて大変だった時期だと、そういったことで私のことを、あんた頑張れよというようなことで、防災公園のことでいろいろ言っているけれども信念を貫けと。これは公園はいかんよというような言い方だったと思いますけれども、信念を貫いて頑張れよというふうな、そういう助言をいただきました。

8年で石関町政は5つの公園に着手したわけでありまして。自治体間競争が激しい中で、ほかにたくさん課題も抱えておりまして、そういったものを片づけながらこういう公園計画に進んでいったということでありまして。そういった意味では財政的にも許されるころだったのかと思います。上野田公園が5億円、古墳公園が3億円、南下防災公園が8億5,000万円、これは用地が全て土地開発公社を使って財政の数字に影響を与えないということで、土地開発公社も使いながら今年度で全部土地は購入したと。八幡山グラウンド拡張計画が今計画進行中ですが、一昨年、用地のほうの買収が済み、一部残っていたのが今年度の7月ぐらいには何とかなるという見通しです。新規に大久保地区に午王頭川親水公園計画も調査費として今回出されました。そういった状況の中で、もう一つがこの計画を進めてきたというか、そういったことに対しての町長の思い入れといったものを聞き

たいというふうに思うのと、2つ目が防災補助事業を有効に活用できたか。

要するにイベントや人が集まる工夫ができたのかなと。ここで地権者の方にたくさんの土地を出していただいて、人が集まらない公園をつくってしまえば、そういった本当に大切な土地を出していただいた方に申しわけないんじゃないかと、そういった意味で上野田公園や古墳公園に人が集まる工夫ができたか。そして今回8億5,000万円の防災公園計画がありますが、この辺についてもそういった工夫がされているのか。要するに防衛の補助事業を有効に活用して、今までが小学校の体育館建設や水道事業とかさまざまな民生がかかわるそういった補助事業をやってきたわけですけれども、上野田公園からスタートする大きな公園計画の中で、確かに防衛省から半分のお金をいただけるということもありますが、そのいただいたお金が形としてありがたいというふうなそういう形ができたかどうか、その辺をお聞きしたい。

それから、場周経路の見直しというんじゃないんですけれども、非常に双発のヘリが飛びますと、自衛隊の基地から上野田のほうを回って南のほうへ行く場合は、確かに南下防災公園の上を通り、そしてその高さで大松交差点の上を通り、第五保育園を抜けて利根川に出て、利根川をずっと下っていきながら東京のほうに行ったり、茨城のほうに行ったり千葉のほうに行ったりという経路であります。この辺は私のところでも双発のヘリが飛ぶとかなり大きな音がします。こういった施設をつくる大きな地域の分けでいくと、明治地区だけが防衛の補助事業の対象区というふうなことを言われていますが、こういったことで見直しはないのか。

それから、防衛省との非常に綿密な関係があるんだと思いますが、そういったものは構築できているのか。この4点についてお聞きします。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 金谷議員のほうから4点ほどご質問をいただきました。

まず1点に、私の今までの任期8年で5つの公園建設に邁進したがとのことでありますが、幾つの公園を建設したかではなく、いつにおいても私は福祉、教育、産業と全ての分野でのいろいろな視点に立って町の置かれている状況を判断し、そして皆様のご協力を仰ぎながら、評価は自分でするものではありませんが、行政を総合的に計画的に運営してきたと思っております。議員ご指摘の公園整備においても計画的に進めてきたと思っております。また自治体間競争激化とのことでありますが、いろいろなことに関しましては関係市町村と協力をしながら進めていくことが大切ではないかというようにも思っております。

上野田公園と先ほど申し上げましたが、上野田公園は入っていないのかなというように思っております。

2番目の防衛事業を有効に活用できているかということで答弁をさせていただきます。

防衛省の補助事業につきましては、金谷議員がご指摘の5つの公園のうち、上野田公園と南下防災公園の2公園になっております。防衛事業を有効に活用できたかのご質問ですが、防衛事業につきましては再三ご説明を申し上げたとおり、他の補助金と比べて補助率がいいのはご承知かと思っております。この南下防災公園を例にとりましても、補助対象となる土地取得費の補助率2分の1、工事費については補助率3分の2となっており、町単独費の支出を相当程度低く抑えられますので、防衛補助事業を有効に活用できたかのご質問ですが、私は活用できたというように認識をしております。

また、イベントや人が集まる工夫ができたかのご質問ですが、町民の皆様が集える公園ですので、四季折々、町民の皆様が心豊かなひとときを過ごし、集うことによって深まる町民同士の連帯感を培っていくことができる催しなども仕掛けていければとも思っております。それがひいてはいざ災害時が発生したときには、お互いに協力し支え合う共助の精神につながっていくのではないかと思っております。

最近、上野田公園のほうに行く機会がございまして行ってみますと、大分子供たち、そしてまた家族で活用していただいているのかなというようなことで私は思っております。

3番目に、場周経路の見直しが必要ではないかということでございます。場周経路は飛行場などにおいて離着陸を安全に実施するために定められた経路であり、他の地域へ飛行するために飛行場を離陸する場合や、他の地域から飛来し飛行場に着陸する際に使用されるものであると思っております。場周経路の設置の際には、騒音等の影響を考慮し、学校や病院・住宅密集地などを避けるように検討をされております。現段階では見直しが必要であるとは考えておりません。また町は見直すことはありません。ここ10年ぐらいたっていると思いますが、以前に見直しをした経過がございます。その経過はいわゆる小井戸地区、今上野田公園がある辺が一番先の場周経路であったのかなというように思っておりますが、もっと東側に今度それますと、大藪の堤のところから直線的に箕郷に向かって経路が、今は高崎になりましたが、いわゆる箕郷地区に多くの場周経路が移ったというようなことは聞いております。

それから4番目に、防衛省との関係構築はできたのかというご質問ですが、防衛省から必要な情報を提供していただき、町として町民の安心・安全を守るために対応することが議員の言われる関係構築というのであれば、できているということになります。平成27年度も防衛省の補助事業を予定していますが、通常ならば町単独事業として対応せざるを得ない事業に対して、国の補助が受けられるということは町民の負担軽減にもつながると思っております。今後とも町民の安心・安全を守るため、防衛施設周辺対策事業に取り組んでいきたいと考えております。

議長（近藤 保君） 金谷議員。

〔2番 金谷重男君発言〕

2番（金谷重男君） 答弁ありがとうございました。

一つずつちょっと見ていこうと思っておりますが、私はこの最初の質問の中で、やはり南下防災公園計画の規模が大分大きくなってまいりました。議会の一般質問の内容を整理してみたんですけども、23年の6月から26年12月までの私の質問の中で、最初にこれが出てくるのが24年6月の4億円以上の公園計画だが町民の意見の集約はという質問をさせてもらいました。議会、地元説明会の手順を踏んだというふうに町長は答弁されました。その後、25年6月、防災公園計画の予算総額は7億円プラスアルファというふうなことで、7月ごろ実施計画案を示すというふうになりました。25年の9月、7億円以上の防災公園を上野田公園規模に縮小できないかというような質問もさせてもらいました。コスト削減に努め、計画を進めるということです。そして26年の6月、ヘリポートの建設費は幾らか、その答弁はできない。そして26年の9月、自然災害時に南下防災公園は避難場所に適するのかということです。高台であるしということで、一番の防災の基点になる場所だという答弁がありました。そして26年12月、8億円基金の大規模公園計画の縮小見直しはということに関し、コスト削減に努め進めるというふうな答弁がございました。

その後、岸議員の質問に、その後8億5,000万という数字が出てまいりました。いろいろこの公園計画が皆さんに提示されたときに、私が4億円以上の公園なんだけどというふうに質問したんだけど、このときにもう既に7億円、8億円というふうな計画があったんでしょうか。そこを聞きたいんです。24年6月の質問で4億以上ですから7億でも6億でもあると思うんですけども、この当時は4億円という数字は予算委員会の中で出てきたような数字を私は上げたような気がするんですけども、この時点で4億円の公園計画だったのかをお聞きしたいんです。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君発言〕

町長（石関 昭君） そのときには4億円と言ったと思っておりますが、そのときから今言った7億から8億がかかるという予想はしておりました。だがしかしその4億円と言ったのが、いわゆる総合的な全額かかる費用で言ったというようには私は思っておりません。土地を買うのにそのくらいかかりますよとか、そういったつもりで言ったと思っております。当時の課長さんはここにはおられないんですけども、いわゆるそういったことで、総額で4億円かかるというようなことは言ったとは私は思っておりません。

議長（近藤 保君） 金谷議員。

〔2番 金谷重男君発言〕

2 番（金谷重男君） 私もこの防災公園の防衛補助事業についてはたくさんの公金をもらえるということで、いろいろな補助金の防衛施設周辺地帯との調和を図るための主な施策ということで、騒音を防ぐとか騒音以外の障害を防ぐとか、生活事業上の障害を和らげる。そして周辺地域への影響を和らげる。この中でいくと生活事業上の障害を和らげる。民生安定施設の助成ということで公園等、消防施設、し尿処理、学習等の共用施設と、こういったところで出てまいります。ですから要するに最初から地元説明会をするときに、そういったしっかりとした計画があって、要望を受けてしっかりと計画を立てて、そして予算立てをして進めていくのが私は筋かなと思います。

公共政策というのは、これを建前としていかなければ成り立たないんじゃないかなというふうには思うんです。捉え方はいろいろあると思いますが、そういった意味でここから毎年5,000万円ずつ何年間というのは、やはり町にとっては大変かなと。国が1,000兆円借金があり、群馬県でも1,000億円、吉岡だって基金がありますが50億というふうな状況の中で、町長さんの特別にこういった総合計画の中で位置づけられている公園というふうなことでつくるにしても、後年のことも考えて、そして維持経費も考えながらやっていくということが大切かなと私は思います。

そういった意味で、これはもう既に地域公園ではない。金額的にはもう町全体の公園だし、地権者の方々が大切な土地を出していただいた、そういった公園計画ですので、しっかりとしたという意味じゃないんだけど、町民に本当に理解してもらえるような公園計画にならなきゃならない。施政方針から、それから一般質問、一般会計の質問等の中でも幾つか出てまいりましたが、やはりなかなかこの状態がよくわからない。それで町長も安中の後閑公園みたいなものというような話もありました。その辺のところを私も安中にいましたのでよく知っているんですけど、これから吉岡町が今つくられている公園に対して人が集まる工夫をしていかないと、せっかく出してくれた地権者の方々に申しわけないというふうには私は思います。そういった意味で、今後この公園計画を進めていく中でそういったことが私は必要だと思うんですが。

もう一つ、防衛省とのつながりの中で、私も端っばの議員ですからそういった意味で防衛の関係の行事には参加させてもらっております。昨年春の花見には午前中は野球の審判のお手伝いがあったり行けませんでした、その日も葬式があったり行けないわけだったんですけど、前の日に弔問を済ませて午前中その審判が終わった後、その審判の服を着て記念行事のほうには参加させてもらいました。最後まで名刺の交換をしたり、国会議員の方から金谷さん、きょうはどんな格好してきたんだいと言われてたんですけど、さっき済みません、審判終わって真っ黒な顔で申しわけないというような話をしながら、そこ

の担当の自衛隊の方と話をしながら名刺交換をしてみました。

吉岡町は、当日は演壇に上がる方は1人もおりませんでした。高崎市そして榛東村、関係の自治体、そういったところの方々がそこに顔を合わせておりました。そういった意味でいろんなこともあるんだと思うんですけども、そういった配慮がされなかったのかなというふうな、そんな寂しい思いもあったのでこんな本当の意味での防衛省との構築ができてきているのかと。私だったら誰かに行ってもらおうというふうに思いますが、そういった配慮がやっぱりこれからも必要じゃないかなというふうに思っておりました。そんなことを思いながら今回の質問の1問目を考えたわけでございます。

2つ目の質問ですが、このヘリポートはこの間も一般質問でやったときに、ヘリポートは幾らかかるんだろうかというような、そういった質問をいたしました。建設費は幾らなのか。それから防災公園は町民が本当に、さっきも言ったんですけどもイメージできているのか。それからこの桃井城址公園は町の歴史ゾーンの中核だし、6世紀初めの榛名山の大噴火2回ありましたが、何回も噴火の後みんなが渋川でもその上に畑をつくり、いろんなことをしてきた。その町内の古墳はおよそ300、そして駒寄地区が100ぐらいじゃないかなというふうに思うんです。明治が300で駒寄が100ぐらい戦前はあったのかなと思うんですけども、その中でも一番代表にされる榛東村の高塚の古墳に匹敵するような位置です。そして高塚のすぐ横には県営団地があって、あの中に二十幾つかの小さい群集墳があるんです。要するにその大王をたたえるために、その子孫がそこに俺たちがいるんだということでそこに小古墳をつくるんですけども、桃井城址のほうも前方後円墳があって、その東側に群集墳という南下古墳群があるんです。そういった意味で非常に歴史的なゾーンでもあります。そういった意味でこのところのことも含めて、防災公園の位置づけというのは大切なところだと思います。

大規模公園計画に対する町民の声も少しあるんだと私は思います。そういった意味でこのヘリポート建設費。それから防災公園は町民のイメージとしてどうか。それから桃井城址公園は町の歴史ゾーンの中核だと思っただけでも、どうでしょうか。それから大規模公園に対する町民の声は少し聞こえていますかということで町長にお聞きしたいんですが、よろしくをお願いします。2番目の質問です。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 2番目の質問の防災公園のヘリポートの費用はということでよろしいでしょうか。今議会においても金谷議員より、南下城山防災公園についてのご質問をいただいております。今回の質問内容は、ヘリポートの建設費は幾らなのかとのことでありますが、本公園につきましては何度も本会議または委員会等で答弁・説明させていただいております。

すが、まず町では当防災公園を「桃井城址の歴史性やすぐれた眺望を生かしながら、平常時には誰もが憩いの場として楽しむことができ、災害発生時には一次避難場所となる防災機能をあわせ持つ公園」をコンセプトに整備を進めていることはご理解をいただいていると思っております。

さて、ヘリポートの建設費とのことでありますが、災害時には緊急物資輸送やけが人の緊急搬送、そしてまた陸路が断たれたとき、空路からの支援もできるようにヘリコプターの離発着も可能な広場として設置するもので、ふだんは多目的広場として自由に利用されるものであり、ヘリポートとして整備して利用するものではないということを改めて申し上げます。

さて、用地買収が終了すれば、いよいよ工事を始めるわけですが、以前にも申し上げたところではありますが、工事発注に当たりましては実施設計を精査しながらコスト縮減を図るよう努力していく所存であります。先ほどから言われる、あのところには大変な歴史のものがあるということは私も認識をしております。当時そのところに今言った防災公園をつくるというときに調査をしておりましたら、いわゆる今、金谷議員が申される大変に貴重価値のある古墳があるということが発見され、県のほうにお伺いしたところ、いわゆるそれを保護しながら公園をつくっていただければ、そのところに公園をつくってもいいですよということで、今回はそのものを保護しながら建設していくということでご理解をいただきたいと思っております。

それから2つ目に、防災公園は町民がイメージできているかということであります。この件につきましては課長より答弁をさせます。

それから先ほど申し上げたとおり、桃井城址公園は町の歴史ゾーンの中核であるということについては、私より答弁させていただきます。以前より申し上げたとおりであります。公園の整備コンセプトを「桃井城址の歴史性やすぐれた眺望を生かしながら、先ほど申し上げたとおり、平常時は誰もが憩いの場として楽しむことができ、災害発生時には一次避難場所として防災機能をあわせ持つ公園」として本事業を進めております。桃井城址の整備予定区域は、全体が埋蔵文化財包蔵地の大藪遺跡に属し、歴史性豊かなところでもあります。公園整備に伴い文化財試掘調査業務を実施していましたが、先ほど私が申し上げたところでもございます。桃井城の一番高いところ、尾根状に伸びる段差のある前方後円墳であることが判明し、県に相談しながら試掘をしたということで、先ほど申し上げたとおり、いわゆるそれを保護しながら公園をつくっていただければ結構だというような県の指示を仰ぎながら今工事を進めていく所存であります。

それから、大規模公園計画に対する町民の声が聞こえるのかということではあります。その件については「人と自然が共生した 住みよいまち よしおか」を町政運営の指針とし

て、平成13年度に第4次総合計画はスタートしております。計画の策定に当たっては住民皆様にも参加していただき、福祉、教育を初め行政全体にわたりいろいろな意見をいただいております、目標を達成するために主要プロジェクトを掲げ、まちづくりを総合的・計画的に運営してまいりました。平成23年度からは第5次総合計画を策定するに当たり、総合計画アンケート調査を実施していますが、生活環境の満足度で重要度が高いものの満足度が低いものの一つに、身近な公園や一日遊べる公園が挙げられておりました。このような町民皆様の公園設置へのご意見・ご要望を真摯に捉え、住みよいまちづくりをするための主要プロジェクトの一つにも位置づけられている南下城山防災公園を整備しているところでございます。これからも町民皆様の声に応えながら、そして協力をいただきながら、住みよいまちづくりを目指していきたいと思っております。

先ほど申し上げたとおり、ほかは課長より答弁をさせます。

議長（近藤 保君） 富岡産業建設課長。

〔産業建設課長 富岡輝明君発言〕

産業建設課長（富岡輝明君） それでは、町民がイメージできていないのではないかというようなことにつきまして、説明をさせていただきます。

平成13年度にスタートをしました第4次吉岡町総合計画において、住みよいまちづくりを進めていくための主要施策の一つに桃井城址公園の整備を掲げ、長年にわたり整備の可能性を模索してまいりました。町財政の負担が大きな課題でありましたが、一部防災的機能を持たせれば防衛省の補助金が受けられるということになったため、「桃井城址の歴史性やすぐれた眺望を生かしながら、誰もが親しむことのできる公園を整備するという当初の目的をそのままに、災害時においては救援機能を備えた一時避難場所となることを当初の整備目的に追加し、桃井城址の歴史性やすぐれた眺望を生かしながら平常時は誰もが憩いの場として楽しむことができ、災害発生時には一次避難場所となる防災機能をあわせ持つ公園」をコンセプトにスタートしております。

周知につきましては今日までの間、節目節目に計画案をお示ししながら説明をさせていただき、防災公園に対してのご理解、ご承知をいただいているものと思っておりますが、さらにこの南下城山防災公園を広く知っていただくために、さまざまな機会を通じて周知を図っていきたいと考えております。

議長（近藤 保君） 金谷議員。

〔2番 金谷重男君発言〕

2番（金谷重男君） 再質問というか、そこのところは一つだけちょっとお聞きしたいと思ったんです。これは総合計画の中で公園をつくってほしいという要望もたくさんありました。ワークショップというものがありましたけれども、私もそこに出ておりましたし、この総

合計画のプランニングの中の委員にもさせてもらいました。一般人ということで。その中で、要するに小さい公園が欲しいという要望はたくさん町民の中にあるんです。この間の町長の答弁の中に、大久保地区は地価が高いから、例えば陣場や小倉のようなああいっただものは年間50万円ぐらいかかると。だからよし大久保地区のほうでそれをというような話がありましたけれども、皆さんが要望しているのは本当にたくさん今できたインターの北のほうだとか溝祭も駒寄も含めると思うんですけれども、ああいっただところに三角形でも、ちょっとでもブランコがあればいいなという、そういうものを要求しているんです。そういう土地の買収が途中で端っばになったようなところとか、小さなところの空き地があればそれを公園にしてもらいたいという要望だと思うんです。だからこの間もできないから大久保地区に親水公園をつくってというような話もありましたけれども、親水公園はここにありますがけれども、魚道もないですから大きい魚も上がってこないという、そういうものです。

ここもイベントを仕掛ければ、何か町でああいいところをつくったなというようなこともあると思うんですけれども、つくってもいいけれどもやっぱり地元でそれを活用し、つくるということはなかなかできないなと思うんです。行政のほうでも手を入れてもらわないと。そういった意味でこの間の町長の答弁のミニ公園という、大久保地区はちょっと無理だと、地価が高いからと。その辺のところをちょっとまた再度お聞きしたいんですが、よろしくをお願いします。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君発言〕

町長（石関 昭君） 先日の大久保地区は土地の賃貸が大分かかると。ちょっとしたところへ貸せば1年間300坪で約200万円近くになるというようなことで、ああいうところにつくるのはちょっと無理ではないかということは私は言いました。だがしかし、日ごろ私は自治会には言っております。小さいミニ公園であるということで、いわゆる皆様が計画を立てていただければ、そのことについてはもしか計画を立てれば、立てたなりに町は援助しますよということの日ごろ伝えております。ですから今、金谷議員が言われるような小さな半端な三角のところでも結構なんですよという、そういうところであれば、町は町としてそこに援助しながらつくっていただければ結構だと、私はそういうように思っております。そういったことをご理解をいただきたいと思っています。

議長（近藤 保君） 金谷議員。

〔2番 金谷重男君発言〕

2番（金谷重男君） そういった意見が集約できて、間に私はもう入れないというところがあるので、なかなか自治会のほうの要望事項に上がってこないのかなというふうに思います。

これが今の実態です。本当に今、小さな子供さんがいる方は、保育園でも土曜日の午前中だけでもいいから遊具を使えばとか、あるいは自治会の端っこにあるブランコを使ったりとか、そういうことでやっているわけですけども、もっと近くにあればいいなという要望はたくさんあると思います。なかなかそれが自治会を通じて町のほうに伝わっていないのかなというふうに思うんです。

さて、東日本大震災の、これはきょうは忘れてはならない日でございます。私は議会の相馬市の訪問で被災地を初めて見せてもらって、この被害の甚大さを本当に目の当たりにしました。その後、名取市それから東松島市、それからその周辺をJRが売り出したもので1日1万円ということで行ってまいりましたけれども、2回ほど行きました。やはりこれを見て、吉岡町の半分でなくてほとんど、固まりがなくなっちゃったのを見てがっかりというよりも啞然とするわけです。この間議会でその後も山元町を見せてもらいました。駅がなくなっちゃったところですけども、大分堤防がかさ上げされて見えておりましたが、その周辺はまだまだ復興というか、家があそこに戻ってくる気配はございませんでした。

私もそういった意味から、自身も自分の生活習慣の中で一つぐらいは変えて、そういった意味で議員生活の中で少し変えてみようかなということにチャレンジして今までできております。それまでの生活習慣をちょっと変えてみよう、これも一つの自分のやれることかなというふうに思ってやりました。だからこそ防災という言葉がこの被害に遭った以後、2つ防災という言葉が考え直されてきているんです。自治体の中で2つありますけれども、1つは防災計画の見直しの中で、私どもは浜松に行って河川の周辺にあった防災公園を見せてもらいました。立派でしたが、最後の説明でこの公園は津波がこの程度あると使えなくなっちゃう公園なんだという説明を受けました。ああそうですかということで、がっかりしたんですけども、すばらしい公園でしたが、津波が来るとこれはだめだ。それからもう一つは防災公園の整備ということ。だからこういう大きな災害があつて防災という言葉が出てきて、この言葉のイメージというのは非常に強烈ですから、南下の防災公園もこういった意味での後押しになるんだけど、適切な規模でやっていけないのかな。ヘリポートについても災害時は自衛隊もあるし、あるいは畑等もたくさんありますから、そういった意味ではどこでも使える。

今はドクターヘリなんかも吉岡に飛んできて発着していますけれども、10回は来ないんじゃないかというふうに言っています。私も目撃したけれども、2回ともそこで処置をして、また救急車に乗って帰っちゃったというのを見るとだめだったのかなというところを見ました。要するにドクターヘリなんかも間に合うんなら前橋が近いからぱっと行っちゃうんだけど、本当にとまっている心臓の人を起こすために飛んできて、お医者さんがそ

ここで処置しているというのが実態です。ですからそういった意味ではいろんなところでヘリポートも必要なんだろうと思うんだけどもやっぱり2つ、もしものためにというか、それが必要なのかなというふうに私も思います。

もう一度言いますけれども、500年代の初めに榛名山は2回爆発した。一度は495年6月という節もあるんです。これはどうやって導き出したか知らないんですけども、地層の分布からそういうことを、田植え前だったとかそんなことを、その泥流の上にはさらに耕作が繰り返されたというような話もあります。地震研究家の産業総研の地質学者の専門家の下司信夫さんという方は、榛名山は1万年間隔で5回ほど爆発していると。それが500年のニッ岳の噴火だった。1つはコモチのほうに飛んでいった、もう一つは群馬町のほうに泥流が流れていったというようなことなんですが、雲仙普賢岳を思い出せばいいというふうに言われています。ああいう噴火が今から1,500年前にあったんだということです。ですからそういった意味でこの防災公園を私が考えるには、ここにあったよという碑をつくるということが大事だと思うんです。今、東北地方でもここまで来たよというのがあるんです。でもここでもあったんだよ、1,500年前に雲仙普賢岳と同じようなことがありましたよというのが必要だと思います。

それから現代の防災の中で、あそこは中世ではのろし台というので有名だったらいいんです。のろしで伝播すると。となると私はそこに現代のアンテナというか、防災アンテナの大きいのを建てる。もし三脚は要らないんですから、その上に細いものを建てて、そういった意味で使えるんじゃないかなという気がします。そういった意味で環境保護との協議をしながら、本当の意味でのそういうときに使えるものになるんじゃないかなというふうに期待をしております。

3つ目の質問ですけれども、総合計画の新産業ゾーンであります、なかなか手が見つからない。インター西の構想については、前橋はもう既に計画を進めるらしいです。ポートピアの後の三宮神社の南側のところは、ほとんど手がついていない。こういったところで構想はなかったのかということと、前橋市とのトップとのパイプがあるんだと思うんですけども、そういう中でこの新産業ゾーンの西のあの地域の構想というものが一步この4年間で進められなかったのかどうか、ちょっとお聞きしたいんです。よろしくお願ひします。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 新産業ゾーンの構想はなかったかということで、インター西の構想ということで答弁させていただきます。

新産業ゾーンの構想というのは、平成23年度から第5次総合計画の中で示したものでありまして、その構想の中身については駒寄スマートインターチェンジの大型化を進めな

がら、スマートインターチェンジの周辺と吉岡バイパス沿道へ優良企業の誘致を進めますと記載しているところでもあります。新産業ゾーンの構想はなかったのかとのお尋ねですが、町といたしましては現在まさに駒寄スマートインターチェンジの大型化に取り組んでおります。そしてそれと同時に、優良企業を誘致できる環境を法的に整えるために、町全体の土地利用の方針を見直す仕事にも取り組んでいるところでありまして、総合計画に掲げた新産業ゾーンの構想を実現するため、着実に前へ前へと進んでいる状況であることを答弁させていただきます。

なお、インターチェンジの西側の構想はとのお尋ねであります。吉岡町土地利用方針検討委員会からの答申によりますと、吉岡町においては駒寄スマートインターチェンジの周辺が工業系企業の誘致先として最も潜在応力が高いと考察されております。その上で、駒寄スマートインターチェンジの西側においては、前橋市が産業系の団地開発を計画していることから、これと一体となり工業系土地利用を図ることが広域的な土地利用の観点からも望ましいとして、工業誘致エリアにすると結論づけております。私はこの吉岡町を調和のとれた住みよい町としていくためには、今回の答申の内容を最大限尊重する方針でありますので、答申の方向性に沿って今後、土地利用の規制や誘導を適切に進めてまいりたいと思っております。

それから2番目といたしまして、ポートピア後の町の構想はなかったかということになります。手短かに申し上げますと、なかったというのが実態ではなかったかと思っております。現在は農業振興地域の農用地に指定をされております。

それから、3番目の前橋市とトップのパイプはあるのかということでございます。当然、首長同士と会う機会は多くあります。相談も持ちかけたり、時には直接電話をいただくこともあります。また、こちらから話を持ち出すこともあり、トップ同士はもちろんですが担当レベルについてもお互いに良好な関係を保っていると思っております。

議長（近藤 保君） 金谷議員。

〔2番 金谷重男君発言〕

2番（金谷重男君） 3点ほど答えていただいたんですけども、ポートピアのいろいろ自治会との協議の中で、ポートピアは来ないということで結論づけられたわけですけども、その後も4年たつわけですが、このところいろんな、前橋市がそういう動きがあるということで、今町長からも工業系のそういうところに適しているというようなお答えを聞いたのでありがたく思っています。前橋市が進めていますので、一体となってこれは進めていく、要するに地元の要望があれば、地権者の要望があればそういった方向がつけられるのかなというふうに思っております。

平成25年5月13日の渋川北群馬地域市町村懇談会の意見交換で、石関町長が発言し

た後に産業経済部長の発言で、企業誘致には昨年は群馬県が全国で一番立地面積が多く、今も引き合いが続いています。一方どうしても売るところが少なくなるということで、昨年から庁内関係部局及び市町村からの提案を踏まえて検討し、昨年8月に10カ所を選定して農林調整を含め庁内関係部局で法令をどうクリアしたらよいか検討していますと。5年に一度の都市計画の見直しをあわせ検討し、本年度中に決定しなければなりません。追加があればお話しいただきますということで、今ちょうどこの都市計画マスタープランの閲覧があった後ですから私も見ました。その以前とそれほど変わっておりません。そういった状況の中で、この辺のところの一番、新産業ゾーンの東側は商業施設が希望を出しているけれども、この西側の開発、この辺が今後大事なかなというふうに思っておりますが、町長もう一回ポトピアとのあれはもうないんですよね、これは。この再燃というのはもう終わりですよ。

議長 長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君発言〕

町長（石関 昭君） 私は、再燃はないと思っております。

議長 長（近藤 保君） 金谷議員。

〔2番 金谷重男君発言〕

2番（金谷重男君） 4番目の質問です。

西部地域ですけれども、伊香保とタイアップした中でというような、この間も私はふるさと納税のことで中之条町を出しましたけれども、これは町長に言わせると脱税の手法の一つで、企業とするとこれをうまく使ってというような見方もあるようです。それは確かなようです。ただ、中之条町はうまく使っているなど。榛東村も物産を白子のりから始まってずらずらっと、みなみさんのイチゴとかいろいろ出ていますけれども並べています。吉岡はある意味、伊香保を使えるんじゃないかというふうに、伊香保と連携しながらそのふるさと納税を集めるということも一つの手かなという気がするんです。観光の資源を伊香保とどうつなげていくか、この辺が大事なかなと。

そして昭和村なんかを見ますと、村長さんとの関係で國學院久我山のサッカー部の監督で李さんという方や、元ブンデスリーガの奥寺さんという方とつながりを持ちながら、寄附金を集めながら李さんが昭和村に4面の人工芝のサッカー場と芝のサッカー場をつくりました。これは村の山林だと思います。ただ、村は何したかという、そこまでの県道からのアクセス道路、農道ですか、大規模農道とのアクセス道路をつくっただけだと思います。ここがよかったのは、東京から1時間で来られるということだったと思います。榛東村のサッカー場を奥寺さんたちが見て、これはもっといいところはないかということで行ったんだけど、冬は雪があるということです。吉岡は雪がございません。そういった

意味では東京の人工のスポーツ施設や福祉施設が東京都内にあって今出たがっていますから、そういったものをトップセールスする中で、この辺のものが持ってこれれば民間でサッカー場やあるいはそういったグラウンドとかといったものが持ってこられればいいのかと思いますけれども、これは夢のような話ですけれども、これは動かなければならないことだと思います。

そういった意味で伊香保を前面に。大樹町もいいがとこれ出ていますが、これも災害協定を結ぶ中で、東京との交流を続けていくというときに伊香保が使えるんじゃないかといふふうに思っていますし、緑地ゾーンがたくさんあります。こういったところをもっと整備する中で、整備といっても地権者との協力の中で町がどういう手だてができるか、里山を保護できるかということだと思いますが、そういう中で緑地ゾーンを発信するそのときに、やはり来ていただく宿泊先は伊香保温泉というような、そういうテーマを持ちながらやっていくと吉岡町が非常に生きてくる。まして西部地区には森田さんの大きな豪農の館みたいなものもありますし、さまざまなそういった工夫ができるかなと。そして上のほうの景色を見ますと東京がぼうっと見えるという、そういういいロケーションもあります。そういった意味でこの伊香保を生かせないかということで4番目の質問ですが、いかがでしょうか。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 伊香保と連携したトップセールスで西部地域が変わるということで答弁させていただきます。

第5次総合計画では、土地利用構想において観光交流ゾーンとして伊香保街道の活性化を提案してあります。また4つのシンボルプロジェクトの第1のプロジェクトである「よしおか再発見プロジェクト」では、地域資源の活用と伊香保温泉との連携を核にした「渋川、伊香保、吉岡観光トライアングル構想」を掲げております。これらの構想は、近く実現できると見込まれる駒寄スマートインターチェンジの大型化によって達成できる目標であると思っております。また高崎渋川線バイパス開通は、伊香保へ向かうお客さんの周遊性を高めるきっかけとなっております。

一昨年は、おっ切り込み街道がNHKでも取り上げられ、観光トライアングルの一端が全国ネットでも発信されました。新しい計画を立案する姿勢も重要であります。今やっと動き出した観光への動きを少しずつ育てることも重要であると考えております。

今年度につきましては、伊香保温泉観光協会と一緒にいった観光PR活動は5回実施しております。7月6日に関越自動車道上里パーキングでの観光PRと農産物の直売、10月18日には上越線上尾駅での観光PR、そしてまた10月19日には伊香保石段街で

渋川市とりんご生産組合、伊香保温泉女将会の合同イベントで、物産館かざぐるまによる野菜の販売等を行っております。そういったことで今、吉岡町には一番他町村とおくれているのが観光かなと私も思っております。ただいま金谷議員のほうからいろいろな提案をいただきました。昭和村のサッカーのことも言われましたけれども、確かに東京から100キロ圏内ということで大変いい位置にいるのかなということとともに、駒寄インターの大型化が改修されれば、またさらによいところになるのかなということではございます。企業の厚生施設としてのグラウンドの誘致ということではありますが、話があればいろんなことで考えていきたいと。また積極的にそういったことでちょっとPRもしたいなというようには思っております。

それから、大樹町のことについては教育長より答弁をさせます。

そして現在、吉岡町が豊かな自然に恵まれ、大変環境のよい町であると。特に西部地区は榛名東麓から広がる自然環境に恵まれた地域であります。しかしながら近年の人口増加や開発等により、緑や水辺空間の減少が懸念され、住民の環境への関心が高まっているということではございます。とにかくこの吉岡町は先ほど申し上げたとおり、観光にはちょっと他町村から比べると一歩引いているのかなと、私もそう思っております。こういったことを頭に入れながら、これからの伊香保を利用した観光に力を入れていければ、この吉岡町も観光に肩を並べるようになれるのかなというようには思っております。（「議長、教育長からの答弁はこの間もらいましたので、くじについては私はそれは結構でございます」の声あり）

議長（近藤 保君） はい。教育長、結構です。金谷議員。

〔2番 金谷重男君発言〕

2番（金谷重男君） そういうことで大事なんですけども、インターが完成するというその起点じゃないんです。私は石関町長にはこの8年間の中でしっかりと進めてきて、ここの段階で観光が活性化されたと言ってほしいんです。インターができ上がってからじゃないんです。要するに私も勉強したときの川崎市の市長さん、学者さんですが、就任して3年後をめどに私は物事を考えたい、そういうふうに言うておられました。就任後3年後にはこうしたいんだと。一、二年目はその足づくり、地盤づくり。そして3年目には花開かせないと間に合わないんです。私はそういった意味ではこの8年間の時間はやはり大事だったというふうには思っております。

さて、最後の町長のマニフェストの達成、この辺のところをちょっとお聞かせください。マニフェスト達成感、簡単にでいいんですけども、点数はどのくらいだということをお聞かせください。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町 長（石関 昭君） マニフェストの達成感はあるのかということでございます。マニフェストが十分に達成できたという達成感には特に持っておりません。できたものもあれば、できなかったものとさまざまであります。達成感を持つことより、日々真剣に取り組んできたかどうかではなかったかと思っております。そう言われれば全力で取り組んできたと自信を持って言えます。

議 長（近藤 保君） 金谷議員。

〔2番 金谷重男君発言〕

2 番（金谷重男君） まあいろいろと一生懸命やっていたということでもあります。吉岡町は2万人の町になりました。これは子育て支援や高齢化対策も十分だったからかもしれませんが、人口増になった理由は県や国がつくってくれたある意味での交通の利便性、そして地価が安かったということが大きな原因かなと思います。ここでだからそれに肉づけをしなきゃならない。ご多分に漏れず社会保障費がこれから急激に伸びてくる。そしてその負担増が町の財政を苦しめる時期が来ると思います。厳しい財政の中で子供であふれる小学校の実態を直視し、教育の充実、ミニ公園整備や狭い生活道路の整備、産業振興、産業誘致、自然環境の保全と課題は山積みではありますが、ここ10年が勝負だと思います。

そういった意味で吉岡町でも世界に飛び立とうという、そういったオリンピックを目指している方々もおります。大久保にありますベルアスレチックジャパンというところがありますが、これは昨年12月に全国から200人ぐらいの棒高跳びの優秀な選手やそれを目指す人たちが集まりました。町内のさまざまな宿泊施設に泊まってオリンピックを目指すんだとやっております。決して吉岡町はオリンピックと関係がないんじゃないかと、もしかするとそういった国際的な選手が東京オリンピックのときにこの吉岡町に練習拠点を持ってくる可能性は大きいと思います。そういった状況の中で吉岡があるわけですから、清新で機動的な町に変えなきゃなりません。そういう期待感を感じるきょうこのごろです。町民が夢を語って勇気を持てるような町になることを祈って、この一般質問を終わりたいと思います。16回の一般質問これで終わるわけですけども、本当にありがとうございました。

議 長（近藤 保君） 以上をもちまして、金谷重男議員の一般質問が終わりました。

ここで昼食休憩をとります。再開を午後1時といたします。

午前11時38分休憩

午後 1時00分再開

議 長（近藤 保君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

議長（近藤 保君） 10番小池春雄議員を指名します。小池議員。

〔10番 小池春雄君登壇〕

10番（小池春雄君） それでは、通告によりまして今期定例会最後の一般質問を行います。本当にトリーになってしまいました。

質問に先立ちまして、本日は4年前に起こりました東日本大震災があつてからちょうど4年になります。犠牲になられた方々、そして被害を受けた方々に対しまして衷心よりお悔やみとお見舞いを申し上げるものであります。そしてまだまだ依然としまして仮設住宅に住まわれているような人がたくさんいるようであります。早い復興を心から願うものであります。

それでは最後の質問になりますので、町長にいたしましてもぜひともしっかりとした、また再選も目指しているようでありますので、ぜひともいいご回答が得られますように、冒頭からお願いをしておきます。

それでは、第1点目でありますけれども、子育て支援策であります。

町長の施政方針では、町民の要望に応える施策と同時に子育て支援策に取り組むとしていきます。これまでも子供を育てるなら吉岡町を合い言葉に、群馬県に先駆けて、また近隣市町村におくれることなく努力をしてきたと述べております。私もこれまでの施策に対しまして評価をするものであります。

町長の施政方針に対しても質問をさせていただきましたが、昨年末に総務省が発表した労働力調査で、非正規比率が38%を超したと発表しています。女性では57%を超しており6割近くであります。働く貧困層が1,100万人を超えたことが国税庁の民間給与実態統計調査でわかりました。また、このうち年収100万円以下の労働者は421万5,000人です。政府は子供の貧困対策の推進に関する法律をつくりました。昨日も質問がありましたが、この法律は子供の将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、貧困の状況にある子供が健やかに育成される環境を整備するとともに、教育の機会均等を図るため、子供の貧困対策を総合的に推進することを目的としています。

この法律では、第4条で地方公共団体の責務として、地方公共団体は基本理念にのっとり、子供の貧困対策に関し国と協力しつつ、当該地域の状況に応じた施策を策定し及び実施し、責務を有するとしています。最新の相対的貧困率は子供で15.7%、6人に1人が貧困だというふうにされております。ひとり親家庭では50.8%です。これらの数字を通じ、法律を見れば行政が何をすべきかが見えてくると思います。

個別的には順を追って質問をいたしますが、現在の社会状況、情勢をどう捉えているのかというのがまず第1点であります。そしてどのように取り組んでいくのかということ、

そしてまた県内でも各地で新年度予算に子育て重点というような記事が多く見受けられます。これらをよく調査し、検討してこれから吉岡町でも進めていくべきではないかというふうに思いますけれども、個別の質問に入る前にこれらについて町長の心構えというんでしょうか、そういうものを聞かせていただければありがたいと思います。よろしくお願ひします。

議 長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町 長（石関 昭君） 子育て支援策について、町の考えをとということで答弁をさせていただきます。

子ども・子育て支援は、児童の権利に関する条約の基本原則である「子どもの最善の利益」が実現される地域社会を目指すものであり、かつ子供一人一人が本来持っている育つ力を伸ばすことです。子供は社会の希望であり、子供たちの笑顔は私たちみんなに力を与えてくれます。本町の将来を担う子供たちが楽しく、たくましく育ち、将来への夢を持ち、自立した責任感のある大人になり、さらには次世代を育てていく社会づくりが求められています。基本的な視点として、子供の自立支援をする、子育てが楽しい、子供と子育てを地域が支えるとしています。これまでの子育て支援に加えて、子ども子育て支援の取り組みの充実を図ってまいります。

また、子供の貧困対策については、昨日の飯島議員の一般質問での教育長の答弁と重なりますが、子供の貧困対策は子供等に対する教育の支援、生活の支援、就労の支援、経済的支援等の支援を、子供の将来がその生まれ育った環境によって左右されない社会を実現することを旨としています。また、国及び地方公共団体の関係機関相互の密接な連携のもとに、関連分野における総合的な取り組みとして行わなければならないとしています。群馬県では対策計画を平成27年度中に策定する予定とのことのようであります。県の対策計画を踏まえ考えたいと思っております。

議 長（近藤 保君） 小池議員。

〔10番 小池春雄君発言〕

10番（小池春雄君） 前段で述べましたけれども、今その子育てをする中で保護者の収入等が大変ばらつきがあるというんですけれども、貧困の格差というものが社会問題になっておりますけれども、富める人はますます富み、貧しい人はまたさらに貧しくなっていくという社会情勢があります。そういう中で今町長が答えましたように、子供はその対等な立場で教育を受ける権利があるということですから、ぜひとも今のこのますます貧困化が進むという社会の中で、地方行政の果たす役割が大事になってくるというふうに思っておりますので、ぜひそのことにも心がけていただきたいというのが1点です。

それと、町長もいろいろ新聞をごらんになったかと思うんですけども、高崎であるとか富岡であるとか、そういうところが、県もそうですけれども、いわゆる子育て支援の充実というようところが大変クローズアップされています。そういう中でそれぞれの市町村が子育て支援策をまた新たにやってくる場所もあると思います。ぜひともそういうものが出てくる中で、少なくともその情報収集というものは町はしっかりやってもらいたいと思うんですけども、そのことは担当課に指示をして、できる、できないは別として、そういうものの県内で行っていることが当町でもおくれることのないように進めていくには、やはり県内市町村のすぐれたというか、まさったそういう施策が大事になってくるというふうに思いますので、そのようなアンテナを高くして情報収集に努めるというような指示をしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君発言〕

町長（石関 昭君） まさに小池議員が言うように、アンテナを高くして情報収集に当たりたいと思っております。

私もこういう立場でいろんなところに視察には行ってまいります。吉岡町よりかよいところというようところで、もちろん議員さんなども視察をしていただいているわけですが、そういったこともいろんなことで吉岡町と対照にしながら、これは吉岡町は劣っているな、これは進んでいるなというような観点からも、いろんなことで情報を収集しながら、この福祉、子育てについては考えていきたいというようにも思っております。担当課はもちろんですけども、町全体のいわゆる職員にもいろんなことでアンテナを高くしてやれということは日ごろから言っております。またこれからもそういったことで努めたいと思っております。

議長（近藤 保君） 小池議員。

〔10番 小池春雄君発言〕

10番（小池春雄君） それではよろしくお願ひします。

それでは第2点目でありますけれども、5歳児健診の実施ということであります。乳幼児健診は1歳6カ月、3歳健診が母子保健法で定められた健診であり、全ての市町村で実施をされております。その他、乳児期に月齢は異なりますが健診が行われています。これに加えてここ数年、5歳児に健診を行う市町村がふえてきました。その理由は、平成17年度に施行されました発達障害者支援法の中に、地方公共団体の責務として発達障害の早期発見、発達障害児に対する早期支援が求められるようになったからであります。

法律では発達障害児に対し、その者の症状に応じて適切に就学前の発達支援、学校における発達支援その他、発達支援が行われるとともに発達障害児に対する就労、地域におけ

る生活等に関する支援及び発達障害者の家族に対する支援が行われるよう必要な支援を講ずるものとしております。3歳までの健診では、集団行動における問題点は明らかにされにくく、ほとんどの5歳児は保育所、幼稚園で集団生活を受けているため、それまでに明らかにならなかった軽度の発達上の問題、社会性の発達における問題が明らかになります。就学前にそれらの児童を発見し、就学後の不適応を少なくするための支援を行うのが5歳児健診の目的であります。

このことにつきましては、これまで文教厚生常任委員会で視察に行っていました。そういうところでも進めておりました。このことはぜひとも当町におきましても早期に実施をすべきだというふうに思いますけれども、町長の見解を問うものであります。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君発言〕

町長（石関 昭君） 5歳児健診について答弁をさせていただきます。

5歳児健診は先ほどから申し上げているとおり、発達障害を早期に発見し、対応方法を支援することで小学校入学の不適応を少なくすることが目的とされておると聞いております。健診内容は、保育園及び幼稚園等の年中児の保護者に対して質問票を送付し、回収後、専門員が園に訪問し、遊んでいる子供の様子を複数の専門員が観察します。そして、発達障害と思われる児の保護者にその結果を専門員が保護者に伝え、支援につなげるものであると思っております。実施に当たっての課題といたしましては、健診や相談には専門員の確保が難しいことや、その他にも課題があることから、健診は前向きに検討課題とさせていただければありがたいと思っております。

議長（近藤 保君） 小池議員。

〔10番 小池春雄君発言〕

10番（小池春雄君） 隣の榛東村でも実施をしておりますので、ぜひとも早期に実現されることを強く要望しておきたいというふうに思います。よろしくお願ひします。

続きまして3点目であります。学校給食費の無料制度であります。新年度で給食費の引き下げが実施されることは評価されると思います。給食費でも県内各地でそれぞれの取り組みがなされています。3町村では無料化されておりますが、第2子から無料、第3子以降を無料にしているところ、安中市では中学3年生を今年度から無料にするようであります。これらも子育て支援の一環で取り組んでいることがうかがえます。今後、給食費の無料化を目指し取り組むべきだというふうに思いますけれども、町長の見解をお尋ねいたします。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君発言〕

町 長（石関 昭君） 学校給食の無料化につきましては、児童生徒が少なく無料化しても財政負担が少ない町村では実施されているようですが、児童生徒数が多い市町村では多額の財源が必要となり、一気に無料化することは困難であるというようにも思っております。この点に関しましては教育長のほうから、町長、これだけ吉岡町では子供を育てるなら吉岡町というようなことを言っているということであるならば、どうにかこの給食費をたとえ幾らかでも安くしてやってくれないかというような提言を受けまして、いわゆる第3子だとかそういったことに援助してもらえないかということで提言をされました。

そういったことで、私は子供が1人でも2人でも3人でも、これは平等に見なくてはいけないということで、いわゆる3人であろうが4人であろうが全部平等に見て、それでは援助をしておこうということでこの課題を上げたわけでございます。そうした困難の中でも、私は保護者の皆様の給食費の負担を少しでも軽減しようと思い、今回、月額400円の値下げを行います。町の財政負担は値下げ前に比べて約1,000万円増になりますが、これにより無料化している町村を除いて県内では最も安い給食費となり、保護者の皆さんがより子育てしやすい環境が整うと思っております。

議 長（近藤 保君） 小池議員。

〔10番 小池春雄君発言〕

10番（小池春雄君） 今年度1,000万円の引き下げを行ったということでありまして。こういう方向でこれから一度にはいかなくても、そういうことを目指して努力していただきたいというふうに思いますけれども、いかがですか。

議 長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君発言〕

町 長（石関 昭君） もちろん町の財政をいろんなことで考えながら、これより無料化に向けての努力ができればと、そういうようには思っております。

議 長（近藤 保君） 小池議員。

〔10番 小池春雄君発言〕

10番（小池春雄君） ぜひとも早く子育てをするなら吉岡町といって胸を張れる時期が来るように、努力をしていただきたいということをお願いをしておきます。

続きまして4点目でありますけれども、スクールバスの無料化についてであります。上野田北部地域が対象地域となっております。これまで引き下げを行ってきましたが、歴史も古く運行されており、利用地域の方たちは感謝していると思います。これまで受益者負担と言っておりましたけれども、無料となればもっと感謝をするというふうに思います。教育を受ける権利は均等であります。ぜひ理解のある回答をお願いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君発言〕

町長（石関 昭君） 通学バス無料化については、以前にも小池議員さんのほうからご質問をいただいております。同じような答弁になりますが、改めて答弁をさせていただきます。

もちろん無料になれば保護者の方々には喜ぶと思いますが、通学バスは皆様方の税金を使い運行させていただいております。そうなるとやはりバスを利用される方には受益者負担の原則から、ある程度負担をいただくことが適正な行財政運営と考えております。減額につきましては、平成20年4月1日から保護者の皆さんの負担を軽減するというので、使用料を従前の2分の1に軽減させていただいたという経過がございます。今後とも通学バスの適正な運営のためにもご理解をいただきたいと思っております。

議長（近藤 保君） 小池議員。

〔10番 小池春雄君発言〕

10番（小池春雄君） 私も2分の1にしたのはよく覚えているんですけども、一度に無料にするのがだめなら、今は2分の1だと、では次には3分の1というような形で、いわゆる子供の教育を受ける機会の均等という面からして、そういうことを考えても決して問題はないかと思うんです。ぜひそういうような努力をしていただきたいと思うんですけども、いかがでしょうか。一遍に無料にするのが嫌だったら、半分にしたんだから次は3分の1でいこうと。ぜひ町長も、これはそのくらいのことは言えないとやっぱりうまくないですよ。ぜひどうぞ。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君発言〕

町長（石関 昭君） だんだん小池節が挟まってくるんですけども、今のところはそういった考えを持っておりません。大変申しわけないんですけども、今までどおりやっていたくということで。先日ちょっと子供たちが乗っている様子を見ました。楽しく利用させていただいているんだなというようなことで見させていただきました。人数的にはどうだといったら、おかげさまで子供がふえているということで余り人数的には変わりがないというようなことで、乗れる地域の方々ほとんど乗っていただいて通学をさせていただいているというような話も聞いております。今のところはそういったことでご答弁させていただければありがたいというようには思っております。

議長（近藤 保君） 小池議員。

〔10番 小池春雄君発言〕

10番（小池春雄君） 先ほども言いましたけれども、2分の1になったことで大変感謝しています。これが3分の1になればもっと感謝します。無料ならもっと感謝しますから、ぜひと

も感謝をされる町長になっていただきたいということをお願いし、またこの点について私は引き続き行政のほうにただしていきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願い致します。

それでは5点目であります。いじめ、不登校児問題ということで出しております。川崎市の中学1年生殺害問題が社会に対し大きな問題を投げかけております。「ひとり親支え不可欠」の見出し記事、上村さんの母は「仕事に追われ、学校へ行くより前に出勤しなければならず、遅い時間に帰宅するので日中何をしているのか十分に把握することができませんでした」とコメント。仕事に追われ、子供との時間を持つ余裕のないひとり親家庭の苦悩が浮かぶ、このような見出し記事が躍っておりました。決して人ごとではなく、私たちに課せられた大きな課題であると思っております。私はこの報道に接し、我が町の実態はどうなっているのかが大変心配になりました。国、県からの指示もありまして不登校児に対する調査が行われたというふうに思います。実態と今後の取り組みについて伺うものでありますけれども、昨日も同様の質問がございました。また教育長のほうからの回答がございました。時間も押していますので、かいつまんで回答をいただければというふうに思いますので、お願いします。

議長（近藤 保君） 大沢教育長。

〔教育長 大沢 清君登壇〕

教育長（大沢 清君） それでは、不登校の児童生徒の調査に関しまして、町の状況についてということでご質問いただいておりますので、私のほうから答弁をさせていただきたいというふうに思います。

今回、川崎市の事件を受けまして、国による調査はどういった調査かということがございますけれども、まず2点ほどございます。その1点目につきましては、まずは学校において7日以上連続して連絡がとれず、生命または身体に被害が生ずるおそれがある者を見込まれる者という調査項目が1つあります。もう一つが学校外の集団とのかかわりの中で、その生命または身体に被害が生ずるおそれがある者、この2つの調査項目に基づいて調査をしろと、こういった指示があったわけでございます。なぜかという余り詳しくは知らないんですけれども、川崎市で殺害された児童が少し非行傾向にあったと。そういった中での不登校があったということで、それに関するような調査をしろと、こういう指示であったということがございます。そこで調査したところ、吉岡町には該当する子供たちは1人もおりませんということがございます。

以上でございます。

議長（近藤 保君） 小池議員。

〔10番 小池春雄君発言〕

10番(小池春雄君) この問題というのは、このケースを見るとこれだけなんですけれども、これまで親が子供を虐待するというようなことで、学校が何回行っても子供に会えなかったとかというのがあって、その後で虐待だということがわかったりするケースもありますね。ぜひこのようなことのないように、教育委員会としてはいろんな対応が後手になったというようなことがないように、お願いをしたいというふうに思っております。

それからもう一点でありますけれども、先日、吉岡町で発生しました女子誘拐未遂事件の件ですけれども、きのうも質問がございました。この中で私は教育委員会の対応というのか、警察の対応というんでしょうか、こういう事件が発生をして、普通社会であれば学校の中でも生徒同士で何かもめごとがあつたりけんかをしたりすると、その原因をつくった人に対してたたいたとかけがをさせたということで、そのけがをさせた子に被害を受けた子に謝りなさいという指導をします。今回私はこの誘拐未遂事件、保護者の人たちは誰を信じていいかわからないというふうに言っているんです。本来、警察官というのはそういう子供の生命、財産を守る人です。その人たちが起こした事件として、だからそのことをお巡りさんが起こしたということで、誰を信じていいかわからないというふうになったと思うんです。

普通の世界ですと、これはやはり私たちが単純に見ても子供にそういう指導をしているんですから、そうであればやはり警察の、本人はきょうの新聞報道ですと懲戒解雇になる見通しのようなことが書いてありましたけれども、警察の上層部の人がやはり学校に来て、そして今回の件については非常に間違っただけをしてしまったと、申しわけなかったというふうに言って、そしてこれはほかの警察官の人はみんないい人なんだ、ちやと職務をやっているんですけれども、たまたまこういう人がいたと。だから皆さん警察を信頼してくださいと、今回の件には大変申しわけなかったと子供の前でやっぱり謝罪をする。そしてこういうことがないように、また警察は一生懸命やるということが、保護者も子供も警察に対する信頼というものを生んでいくのではないかというふうに思うんです。そういうことから、私はそういう対応をぜひともとっていただくよう教育長として努力をしていただきたいと思っておりますけれども、見解はいかがでしょう。

議長(近藤保君) 大沢教育長。

[教育長 大沢清君発言]

教育長(大沢清君) 渋川署に対して学校で謝罪と申しますか、そういったことをやったほうがいいんだろうという話でございますけれども、きのうもちょっとお話しさせていただいたんですけれども、今のところ被害に遭ったお子様が警察官に対してトラウマというんですか、そういう部分がちょっとある。そのために少しスーパーバイザーをお願いして心のケアが必要だと。そんなこともありますので、もうちょっとその辺の様子を見ながら、たま

たまこういう警察官がということで、そのときは私服だったわけですから当然、被害に遭ったお子様は警察官だというふうにはわからなかったわけですが、その後いろいろ報道等によって警察官であったということがわかった。それでその後もいろいろと報道されている。それによって最初のときにはそれほど心の傷はなかったらしいんですけども、大きく報道されることによってそういうことだったのかというようなことで、少しトラウマといいますか、そういうものがある。それに対してお母さんがどのように子供に対して接したらいいのか、そういう部分があるというようなことで昨日もちょっと答弁させていただきましたが、きょうとそれからあした、県のほうからスーパーバイザーの人が来て、まずお母さんに面談をして子供の接し方等についてそこで少しケアをする。そんなことがありますので少し時間をおいて、もし必要であればそういうこともまた警察のほうに話をしていきたいと、そんなふうを考えております。

以上です。

議長（近藤 保君） 小池議員。

〔10番 小池春雄君発言〕

10番（小池春雄君） その被害者個人にもそれは当然のことなんですけれども、やはり今、吉岡町の保護者、小学生、中学生も含め保護者の方々です。この方たちが、そういう誰を信頼していいのかという不信を持っているわけです。だからその不信を一掃するには、やはり警察官の責任ある人が、それは生徒のところで申しわけなかったと、そして普通一般のお巡りさんはこういうふうには一生懸命やっていますということを言うのが大事なんじゃないですか。やはり警察官の謝罪、それは子供に対して、被害に遭った子供だけじゃなくて、やはり今回の警察官に対する不信というもの、大人に対する不信というものは被害者だけじゃないと思うんです。保護者であり、全体の児童生徒であるでしょう。だからその人たちに対してしっかりとした対応が必要ではないかと。

というのは、この前教育長にお話をお伺いしたときも、この事件があつて新聞報道があつた翌日ですか、中学校でそういういろんな社会問題というんですか、それでお巡りさんが来てその話をしてくれるわけだったということが、こういう事件が発生してそれができなくなったということでした。ですからぜひとも保護者・生徒の全体の問題として、警察官が信頼回復を得るには、やはり子供たちにはそういう教育をするんですから、大人がそういう過ちを犯したときといえ、その責任ある人が子供に対して謝罪する、これが当然だと思うんですけども、再度、被害に遭ったその子だけの問題じゃなくて全体の問題として、保護者は誰を信頼していいかわからないと、そこで大人不信、警察不信があるわけですから、ぜひともそのことを教育長として何とかしてほしいと思うんですけども、再度お尋ねします。

議長（近藤 保君） 大沢教育長。

〔教育長 大沢 清君発言〕

教育長（大沢 清君） それを子供の全体を集めてそういうことをやるのがいいのかどうか、その辺のところは十分検討していきたいというふうに思いますけれども、子供の前で警察の組織として起こした問題では、一部情報漏えいとかというのは、その辺は管理上の問題があるかと思えますけれども、警察官という職業の一個人が起こした問題でもございます。それを組織全体として管理といいますか、人事管理上は上司とすれば責任がないというわけでは当然ないわけですが、それをそれぞれの学校に行って子供の前で謝らせるのがいいのかどうか、その辺のところは十分検討をさせていただきたいというふうに思います。

議長（近藤 保君） 小池議員。

〔10番 小池春雄君発言〕

10番（小池春雄君） この問題というのは、教育長も私もあんまり小さく捉えないほうがいいと思ったんです。この問題というのは警察庁長官が謝罪会見を開いているんです。謝罪会見を。というのは、ちょっとした事件で警察庁長官が一々謝罪会見を開かないです。事の重大性に鑑みて、やっぱり国民に対して警察官僚のトップが謝罪をしているという、こういう事例なんです。そうであれば警察庁長官がそこで謝ったんだから、謝罪したんだからいいんじゃないかという考えではなくて、やはりそれはどこで起きたか。それは吉岡町で起きたんですから、だから少なくとも子供であるとか保護者の前で、それはしかるべき人がしかるべき対応をとるとというのが私は筋だと思うんです。それだけ事の重大性です。

今言ったからといってすぐできるとは思いませんけれども、そのことはぜひとも教育委員会と警察、これは県警になるんですか。渋川警察でもどこでもいいです。よく協議して、そのことがどうかということぜひとも協議していただきたいと思えますけれども、いかがですか。

議長（近藤 保君） 大沢教育長。

〔教育長 大沢 清君発言〕

教育長（大沢 清君） 教育委員会としてやるのか、あるいは町の中で起きた問題でございますので、町の中で一応相談させていただくということで回答のほうはさせていただきたいと思えます。

議長（近藤 保君） 小池議員。

〔10番 小池春雄君発言〕

10番（小池春雄君） それでは再度、町長にお伺いします。

ぜひとも今の話のやりとりで中身は十分に理解できたとは思いますが。私はこのことをぜひとも町長と教育委員会そして警察、学校等で協議をして、そのことが必要であるという

ふう判断すれば、ぜひともそういうふうな形で保護者たちの信頼というものを取り戻していただきたいと思っておりますけれども、町長いかがでしょうか。ぜひとも協議していただきたい。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君発言〕

町長（石関 昭君） 教育長が言ったことに尽きるのでありまして、いわゆる警察官が不祥事を起こしたということをお子供たち、そしてまた父兄、一般の方々ももちろんそうですけれども、そういったことをどういった形でできるか。町民の方々そして子供、PTAの方々にもどういった形でできるかと、教育長が言うようなことで考えていきたいと思っております。

議長（近藤 保君） 小池議員。

〔10番 小池春雄君発言〕

10番（小池春雄君） それでは、ぜひとも警察不信にならないような形で対応を求めたいというふうに思います。

それでは6点目でありますけれども、保育料の軽減策についてお尋ねします。子育て支援策の一環として、第2子の保育料の無料化に取り組むべきと思っておりますけれども、見解を問うものであります。これにつきましても群馬県は第3子を無料にするというようなことが新聞記事にも載っております。また、それぞれの市町村でこういう軽減措置をとっております。私はぜひともこのことは行っていただきたいというふうに思っております。これにつきましても、法律の改正もありまして随分進んでいるんです。そのことを町も十分承知だと思っておりますけれども、この点についてお尋ねいたします。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君発言〕

町長（石関 昭君） 第2子保育料無料化ということでよろしいでしょうか。（「はい」の声あり）12月議会で同じことをご質問いただきました。そのときにも言いましたが、私の基本的な考えとして第2子から第3子からではなく第1子からと考え、保育料全体を低く設定しているつもりであります。山畑議員の一般質問でも答弁しましたが、新制度の移行により新しく保育料を定めるに当たり、今まで群馬県が実施していた3歳未満児の保育料軽減措置がなくなりました。今まで県が吉岡町には780万円ぐらい出していただいたということでございます。本来は利用者が負担するところですが、この780万円につきましても今回、町が負担をするということで考えております。そういったことで、吉岡町は措置分を軽減した保育料に設定して、利用者の財政的支援を行うつもりでもあります。

県は第3子を無料にするということですが、これも半額ではないのかなというふうには思っております。ですから吉岡町は第3子にかかる費用を計算しますと400万円

ぐらい。その分の200万は県で出していただくわけですが、残りの200万はいわゆる町が持つということになりますと、3歳未満児の保育料を今まで県が出していたということですが、これが約780万、簡単にいいますと約1,000万は今回の27年度の予算の中に組み込まなければならないなというようには思っております。そういったことで利用者の財政支援は行うつもりではありますが、ご理解をお願いしたいと思っております。

議長（近藤 保君） 小池議員。

〔10番 小池春雄君発言〕

10番（小池春雄君） ぜひとも子育て支援という観点から、保護者の負担軽減に努めていただきたいということをお願いしておきます。

それから、大きな項目の2点目でありますけれども、高齢者支援策についてであります。新年度、町が考えている支援策、改善策は何か。その施策を問いたいということで出しておりますけれども、新年度の中で新しい考えている支援策がありましたら、回答願いたいと思います。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 町が考えている支援また改善策はということでございます。現代は進行する少子高齢化、核家族化や生活思考の差異など、社会構造の変化により地域社会における相互扶助精神が崩れ、公的な福祉支援が依存されています。しかし、公的な支援では対応が困難な支援があります。地域力も加わって解決できる支援もあります。町では今年度から来年度にかけて、地域福祉計画及び行動計画の策定を町と社会福祉協議会が共同して策定することとなっております。町と地域社会のきずなを生かしながら、自助・共助・公助の連携体制の構築に向けて進んでいきたいと思っております。

議長（近藤 保君） 小池議員。

〔10番 小池春雄君発言〕

10番（小池春雄君） 自助、みずからを助けるというんですけれども、共助はともに助けるということなんですけれども、高齢化社会というのはなかなかそのところが難しくなってくるんです。老老介護なんてまさにそういうことだと思うんです。だから共助がなかなかできにくい社会、そしてまた社会の多様性という中で、勤める時間というものも随分違ってきて、朝早く出ていく人もいれば、夜遅く帰ってくる人、親子で住んでいるんだけど、一番肝心なときに子供たちがいないとか、いろいろあるんですけれども、そういう中で、確かに自助・共助というので求めるのは簡単なんですけれども、やっぱり一番大事なこのことというのは公助、公でどこまで見られるかということが大事になってくると思う

んです。それは確かに自助・共助もそれは大事です。しかし最後のとりでというのはやっぱり公助、公が助けるというところになるのではないかというふうに思います。これからそういう時代にもどんどん入ってくるのではないかというふうに思っていました。

先ほど私が一般質問をするに当たって、子供のことも一生懸命やってもらっていいけれども、これから年をとる人のことも考えてもらわないと困るねという話がありましたけれども、ぜひとも高齢者支援ということで、子供についてはさまざまな支援をしていただきたいということを言いましたけれども、高齢者は収入が少なく、また年金もどんどん下がっています。そういう中で吉岡町独自で何とかして高齢者対策として考えられるものがあるのではないかというふうに思います。細部については、これは担当のほうが細かくさまざまなことがわかっているというふうに思いますので、担当のほうからでもいいんですけども、ぜひとも高齢者に対する支援策として、ことしやらなくてもいいんです。考えられるものはこんなものがあるというものがあつたら一つ示していただきたいと思います。

議長（近藤 保君） 小沢健康福祉課長。

〔健康福祉課長 福田文男君発言〕

健康福祉課長（福田文男君） 高齢者支援という部分においてのご質問ですけれども、平成27年度につきましては、これは特に高齢者に対する部分ですけれども、高齢者は健康を維持した中で長生きしていただきたいという部分において、前にも町長のほうからもお話しさせていただきましたけれども、がん検診といった部分においても高齢者対策の一環でございます。特定健診についてもそうでございますけれども、これについての無料化といったものを言えるかと思います。また、国保税の引き下げについても同様というふうに考えております。

以上です。

議長（近藤 保君） 小池議員。

〔10番 小池春雄君発言〕

10番（小池春雄君） これは本年度行うということが明らかになったもので、これはやるものが決まったものなんですけれども、今後新たに高齢者社会を迎えて考えられるものがないかということですから、今すぐ回答できなくても結構です。ぜひそういう立場から物事を押し進めていただきたいということをお願いしておきます。

続きまして、高齢者支援策の2点目であります。社協に対しましてさまざまな事業を委託しております。高齢化社会はますますふえています。新たな事業委託も出てくると思っております。社協の果たす役割は大変大事です。さまざま考えている事業もあるようですが、先日、文教厚生常任委員会で視察に行ってきましたが、事業の裏づけとなる資金の話が出ました。充実した高齢者福祉施策に対応するために、よく協議していただき、資金提

供と充実を図っていただきたいというふうに思いますけれども、見解をお願いします。

議 長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君発言〕

町 長（石関 昭君） 社会福祉協議会は、ご存じのように吉岡町の福祉の拠点として、町と協働して福祉事業を行っていただいております。それは社会福祉、高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉など、さまざまな福祉事業をしていただいております。今後も社会福祉協議会と相談し、協調して吉岡町の福祉の向上を図ってまいりたいと思っております。

議 長（近藤 保君） 小池議員。

〔10番 小池春雄君発言〕

10番（小池春雄君） 社協と協議し過ぎて悪いということはありませんから、ぜひともたくさん協議していただきたいと思います。

私たちが行った感想なんですけれども、何かやろうと思っても、実はこれなんだよねという話がやっぱり出ました。したいこともたくさんあるんだけれども、やはり限られた予算の中ですから限られたことしかできない。予算づけがもう少しあれば、新たなこともまた考えてできるというような話もありました。ぜひそのような話が来たときには、町長として十分に乘って多少の資金面の協力は惜しまないというようなことの確認をしたいんですけれども、いかがでしょうか。

議 長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君発言〕

町 長（石関 昭君） 今後とも、社会福祉協議会とよく相談しながら進めていきたいと思っております。

議 長（近藤 保君） 小池議員。

〔10番 小池春雄君発言〕

10番（小池春雄君） それでは最後になりますけれども、LED化に伴う電気料の無料化について質問をいたします。

早期に取り組んだことに対しては評価されるべきものと私は思っております。ちょうど4年前の3月11日東日本大震災があり、その影響で福島原発が重大事故を起こし、原子力に頼らない再生可能エネルギーへの転換が叫ばれ、その機運は一気に高まりました。私は3年前の議会でLED化を求め、ここに実現をされました。3年前の議会でも申し上げておりますが、先行して進めてきた前橋市では6,500万円かかった電気代が3,500万円に削減される見通しで、自治会の負担をなくすことができ、電気代が要らなくなった分、地域の活性化になる。また、太田市でも1,960万円の節約になったとの報道を紹介した経緯がございます。当町でもぜひとも自治会負担分をなくすべきではないか、ま

たなくせるのではないかというふうに思いますけれども、これにつきましてもまた再選を目指している町長であります。このくらいのことはそんなに大した金がかかるわけじゃないですから、200万円ぐらいの話ですから、わかったと言えば私もこれで9分残っていますけれども終わりなんですけれども、いかがでしょうか。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 防犯灯について答弁をさせていただきます。

そういったわけにはいきません。200万だからうんと言えれば8分あるけどそれで終わりだと、そういうわけにはいきません。私のほうの意見も聞いていただければありがたいと思っております。

防犯灯のLED化につきましては、リース事業により平成26年度末に交換完了を予定しております。LEDに交換しますと、自治会負担の電気料は従前の半額以下になろうかと思っております。また、電気の交換・修理等の維持管理につきましては、今後10年間無料となり、各自治会の負担は大分軽減されるのではないかなというように思っております。また、各自治会の運営につきましては、町より各種の委託料または事業による各種補助金、施設の修理に対する補助金等も交付をしております。町といたしましては、今後10年間で防犯灯リース料として2,300万円ほどを支払っていくこととなりますので、現在は電気料の無料化ということは今考えておりません。

当初このLEDの無料化ということが始まったときには、いわゆる50万円の金額を13地区に平等に配付をしておりました。それも今回は50万円を削除していただけますよということで、詳細については細かいことについては担当課長が把握しておるんですけれども、そういったことでちょっと今のところは、電気料は無料にはできないなというように思っております。

議長（近藤 保君） 小池議員。

〔10番 小池春雄君発言〕

10番（小池春雄君） それでは、これでLED化になったことに伴って自治会がそれぞれ町に負担をしていただく電気料は幾らになりますか。

議長（近藤 保君） 大井町民生活課長。

〔町民生活課長 大井 力君発言〕

町民生活課長（大井 力君） 今現在の電気料が平均、全体で299万円です。それで、1自治会維持費として年3万円とすると39万円、年間全体で電気料・維持費込みで338万円になります。LED導入後は電気料が約150万円、半額となり、維持費はただということで1年間、各自治会の合計で188万円の減額になるのかなと考えております。今、小池議

員のほうから言われたのは電気料幾らになるかということですから、150万円相当だと考えております。

以上です。

議長（近藤 保君） 小池議員。

〔10番 小池春雄君発言〕

10番（小池春雄君） 大した額じゃないんですね。そして私は前から言っているんですけども、防犯灯というよりもここに単位自治会がある。そうすると自治会と自治会の間というのはどこも負担したがるんです。そうなんです。希望に出てこないんです。私は前から言っているんですけども、うちの前のたやの家のところから真っすぐ西へ行く道路なんですけれども、ここは本当に防犯灯の数が少ないんです。といいますのは、どこの自治会でも自治会と自治会の間がずっと田んぼだったり畑だったりするものですから、必要としないうんです。そういうところは防犯灯がないんです。

私はこれだけでは、今の時代になっていろんなさまざまな事件、事故が起きている中で、子供が通学する道路には、少なくともお金のことさえ関係がなければ私は防犯灯をつけていくのかなというふうに思っているんです。だからそういう、秋になると本当に早く日も暮れます。そういうところを私の家の前あたりからたやの家の辺からずっと、小倉に抜けてブドウ畑を通過して、本通りに入るとちょっと交通量もあるものですから、その間を通過して子供が自転車を押していく姿をよく見るんですけども、そういう子供たちの安全を守るという安全確保のためからも、どういふようにすれば私はそういうところに防犯灯、街路灯がつくのかなというふうに思っていて、どうも電気代を払うのは自治会ごとで、直接自分のところに関係がないと、そこは防犯灯が要らないというので申請が出てこないのかなというふうに思っているんです。そういう意味から、子供たちの安全を守るためにはどういふ方策がいいのかなというふうに思ったときに、私はこのような方法がいいんだと思ったんです。

どうでもいいんですけども、LEDによって少し料金を引き下げてもらうことも可能でしょう。そして必要などころにやっぱり必要なだけの防犯灯ができるようなシステムをぜひとも構築していただきたいというふうに思いますけれども、町長いかがでしょうか。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君発言〕

町長（石関 昭君） 今回、LEDをつけるのは916基ということで聞いております。この916基はいわゆる各自治会でこのところに防犯灯をつけてくれないか、このところにつくってくれないかというような申し出があつて初めてつけるものだと思っております。今回、一自治会で年間14万4,000円ぐらい少なくなるかなというようには思ってお

ります。そういったことでも自治会の負担するお金が少なくなっていくのかなというようには思っております。そういったことで、自治会のほうでそここのところに10基つけろということだっただあつとあるんですけどもそうじゃなく、いわゆるこの地域では幾つ、増設する場合には何基ですよ、この地域は何基ですよ、そういううまく年間でトータルをしながら、防犯灯は今までつけてきたというのが実態でございます。

ですから早く言えば南下で防犯灯を10基つけてくれないかということは、そこだけ10基というわけにいかない。全体的に見て年間何灯だというようなことで今まではつけていたのが実態でございます。ですから自治会から出てきたものをよく精査しながら、ああこれならこれでいいというようなことでつけているのが実態でございますので、自治会の方々とよくそういったことでもこれから住民課の方々によく言わせますので、必要のあるところは申し出るというようなことで言えばいいのかなというようには思っておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

議長（近藤 保君） 小池議員。

〔10番 小池春雄君発言〕

10番（小池春雄君） 町長、では今度私と一緒に一回歩いてみましょう。やっぱり歩いてみると、ああなるほどこれはちょっと問題があるなというのが理解できると思います。ぜひともそういう子供の安全ということから考えて、確かに防犯灯は自治会に任せていますけれども、そうじゃなくてやはり危険が伴うような場所については、優先的につけていくというようなことも考えていただきたいと思っておりますけれども、最後にもう一度確認します。

議長（近藤 保君） 石関町長。

〔町長 石関 昭君発言〕

町長（石関 昭君） 私もあんまりまめじゃないんですけども、割合あそここのところに道が欲しいの、あそこはアスファルトにするの、あの工事は終わったんかと、割合結構、町中ぐるぐるぐるぐる回っているんです。私が回るときはトラックで回るんですけども、ぐるぐる回るんですけども、暇があれば一緒に回らせていただきます。

議長（近藤 保君） 小池議員。

〔10番 小池春雄君発言〕

10番（小池春雄君） はい、終わります。

議長（近藤 保君） 以上をもちまして、小池春雄議員の一般質問が終わりました。

ここで休憩をとります。再開は2時40分といたします。

午後2時00分休憩

午後2時38分再開

議長（近藤 保君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

日程第2 議案第36号 平成26年度吉岡町一般会計補正予算（第9号）

議長（近藤 保君） 日程第2、議案第36号 平成26年度吉岡町一般会計補正予算（第9号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

石関町長。

〔町長 石関 昭君登壇〕

町長（石関 昭君） 説明させていただきます。

議案第36号 平成26年度吉岡町一般会計補正予算（第9号）について、提案理由を説明申し上げます。

本補正は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ5,202万7,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ68億6,828万3,000円とするものであります。

今回の補正は、平成26年11月28日に、まち・ひと・しごと創生法が公布され、同年12月27日に国の長期ビジョン及び国の総合戦略がそれぞれ閣議決定され、まち・ひと・しごと創生に総合的に取り組むことになりました。創生法並びに閣議決定に基づき、国の補正予算が2月3日に可決成立したことを受けて、全国の自治体では3月6日までに実施計画を提出することになり、町では3月4日に提出し、3月6日付で正式な実施計画の提出議題の通知が来たことにより、町も補正予算を組み審議をお願いするものでございます。

詳細につきましては、財務課長をして説明させますので、よろしくご審議の上可決いただきますようお願い申し上げます。

議長（近藤 保君） 小淵財務課長。

〔財務課長 小淵 莊作君発言〕

財務課長（小淵 莊作君） それでは、補正予算書をごらんいただきたいと思います。

第1条の歳入歳出予算の補正額でございますが、歳入歳出それぞれ5,202万7,000円を追加いたしまして、総額68億6,828万3,000円としたいものでございます。

第2条につきましては、繰越明許費でございます。「第2表・繰越明許費」によるということで、7ページをごらんください。

今回9件ございます。9件全てが国の補正予算によるもので、地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金事業でございます。本事業は2つの事業メニューに分かれます。1つ

目から8つ目が地方創生先行型による事業でございます。交付限度額が1,944万1,000円でございます。9つ目が地域消費喚起生活支援型による事業でございます。交付限度額が2,767万2,000円でございます。

まず1つ目が、2款総務費1項総務管理費、事業名といたしましては、吉岡町人口ビジョン・総合戦略策定業務937万8,000円となっております。2つ目が、2款総務費1項総務管理費、事業名といたしましては放課後児童見守りパトロール事業229万6,000円となっております。3つ目が、2款総務費1項総務管理費、事業名といたしましては防犯カメラ設置事業349万円となっております。4つ目が、4款衛生費1項保健衛生費、事業名といたしまして子育て相談支援事業84万円となっております。5つ目が、6款農林水産業費1項農業費、事業名としまして道の駅「よしおか温泉」情報発信イベント事業80万円となっております。6つ目が、6款農林水産業費1項農業費、事業名といたしまして道の駅「よしおか温泉」情報端末設置事業637万1,000円となっております。7つ目が、6款農林水産業費1項農業費、事業名としまして道の駅「よしおか温泉」無料Wi-Fiスポット設置事業78万円となっております。8つ目が、7款商工費1項商工費、事業名としましてぐんま新技術・新製品開発推進事業40万円となっております。9つ目が、7款商工費1項商工費、事業名としましてプレミアム付き商品券発行事業2,767万2,000円となっております。

この9つの事業の理由でございますが、国の平成26年度補正予算（第1号）による地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金事業として実施することに伴い、平成26年度中に予算計上する必要があり、年度内での事業完了は困難なことから繰り越しをお願いするものでございます。

次に、11ページをごらんください。事項別明細書でご説明いたします。

歳入でございます。14款国庫支出金2項国庫補助金6目総務費国庫補助金4,711万3,000円追加でございます。次に、18款繰入金2項基金繰入金2目財政調整基金繰入金491万4,000円追加でございます。今回の補正により財政調整基金の取り崩し額は4億8,135万6,000円となり、残高見込み額は24億7,814万円となります。

12ページをごらんください。

次に、歳出でございます。2款総務費1項総務管理費6目企画費937万8,000円追加でございます。主には13節委託料の吉岡町人口ビジョン・総合戦略策定業務委託910万1,000円でございます。本業務委託は、吉岡町における人口の現状と将来の展望を提示する人口ビジョンを策定し、これを踏まえて今後5カ年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた地方版総合戦略を策定するための業務委託でございます。

議長（近藤 保君） 説明の途中ですが、休憩をとります。

午後2時44分休憩

午後2時47分再開

議長（近藤 保君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

それでは、説明を続けてください。小渕財務課長。

〔財務課長 小渕莊作君発言〕

財務課長（小渕莊作君） それでは、引き続いて説明を申し上げます。

次に、8目諸費578万6,000円追加でございます。主には13節委託料の放課後児童見守りパトロール委託224万6,000円でございます。15節防犯カメラ設置工事308万円でございます。これにつきましては放課後児童安全対策事業ということで、児童を狙った事件が多発しています。町でも先ごろ事件がありました。児童の安全対策におけるパトロールを強化するため、シルバー人材センターを活用していきたいと考えております。また、パトロールの効果を高めるため、防犯カメラを通学路等を撮影できる場所に設置し、より安全対策を図っていくものでございます。設置箇所は10カ所程度を予定してございます。

次に、4款衛生費1項保健衛生費3目母子衛生費の健康相談謝礼84万円追加でございます。これにつきましては27年度当初予算において、健康相談を実施することで予算計上されております。この交付金を使ってより一層の拡充を図っていきたくと考えております。今回の補正では拡充分について計上させていただきました。この事業は育児相談の充実事業ということで、子育て世代が安心して子供を産み育てるための支援策として、乳幼児健診の事後相談の充実、母乳相談、子育て相談会のスタッフの充実を図ります。これにより、健診後の電話相談や訪問相談等のフォローを充実させて育児不安を解消することにより、育児ストレスを軽減させていきたいと考えています。

次に、6款農林水産業費1項農業費3目農業振興費795万1,000円追加でございます。主には13節委託料の情報端末用ポータルサイト構築委託料（道の駅）500万円でございます。18節備品購入費の情報端末（道の駅）120万円でございます。これにつきましては道の駅「よしおか温泉」情報発信強化事業としまして、道の駅は今後、道路利用者への情報提供はもとより、通行施設から地域の拠点として広域的なネットワーク機能を期待されております。町でも道の駅よしおか温泉を東の玄関口として位置づけていることから、広域的観光案内、防災及び地域情報の提供施設としてさらなる整備を図るとともに、地域特産品のPRにも力を入れていきたいと整備するものでございます。

次に、7款商工費1項商工費1目商工総務費2,807万2,000円追加ござい

す。主には19節負担金、補助及び交付金のプレミアム付き商品券発行事業補助金2,767万2,000円でございます。この事業につきましては、吉岡町プレミアム付き商品券発行事業ということで、プレミアム率は30%を予定しております。1万円で1万3,000円分使用できるものでございます。500円券が26枚となっております。本事業は域内消費を目的としておるものでございます。

今回の補正予算において、防犯カメラ設置工事とぐんま新技術・新製品開発推進補助金につきましては、平成27年度当初予算に新規事業として予算計上されております。防犯カメラ設置工事は平成27年度当初予算では406万9,000円を設置工事費として計上させていただきました。公共施設等の建物などを主に20基程度の設置を見込んでおりました。その20基程度から児童の通学路を撮影できる公共施設の設置箇所を今回の事業で先行して取り組みたいと考えております。今回の予算で実施する基数は10基程度を計画し、そのうち6基程度を27年度当初予算から先行して実施を予定してございます。

次に、ぐんま新技術・新製品開発推進補助金でございますが、平成27年度当初予算では40万円を補助金として計上させていただきました。県と町は各40%、残りの20%を事業実施事業所が負担することとなっております。県においては、今回のぐんま新技術・新製品開発推進補助金にこの交付金を充てて実施することとなっておりますので、町においても同様にこの交付金を充てて先行して実施したいものでございます。

今回の補正予算と27年度当初予算との関係につきましては、先行して実施する部分のみを27年度で補正による減額で対応したいと考えております。

以上、町長の補足説明とさせていただきます。よろしく申し上げます。

議長（近藤 保君） 提案理由の説明が終わりました。

これより質疑に入ります。質疑ありませんか。

山畑議員。

〔5番 山畑祐男君発言〕

5番（山畑祐男君） これは予算のところでは言えばよかったですけれども、12ページの8目の諸費の中の防犯カメラ設置工事というのがあります。防犯カメラ設置については非常にこれは喜ばしいことなんですけれども、防犯カメラのデータの取り扱いについてはプライバシーの関係もありますので、高崎市の場合はたしか警察官以外はいじっちゃいけないということで入れているようなんです。吉岡についてもその辺のデータの取り扱いを慎重にお願いできればというふうに思います。これはお願いです。

以上。

議長（近藤 保君） ほかにありませんか。

小池議員。

〔10番 小池春雄君発言〕

10番（小池春雄君） まず企画費の中で委託料、吉岡町人口ビジョン・総合戦略策定業務委託というんですけども、これはどこへどんなような形でどういうものを委託していくんですか。ちょっと全く見えてこないんですけども。

議長（近藤 保君） 森田総務政策課長。

〔総務政策課長 森田 潔君発言〕

総務政策課長（森田 潔君） 今回、国のほうから示されたこの活性化交付金の内容の一つとして、先行型で行いなさいというような指示がございます。今回はこの吉岡町の人口ビジョン、国が示しております2060年までの長期人口ビジョンとあわせて、各自治体の人口ビジョンを策定する費用を各自治体に配分をされているものです。この人口ビジョンは2060年を目標として人口ビジョンの推計、人口の現状分析、それから人口の動向分析、それから将来人口の推計と分析、人口の変化が地域の将来に与える影響の分析、考察等がございます。そして、こうした現状分析から人口の将来展望に必要な調査分析、目指すべき将来の方向、そして将来の人口を推計するというところでございます。

1つには自然増減、そしてまた社会増減、そうした総人口が年齢層別によってどう推計されるか、そういったものを専門の業者に委託をして推計をしてもらう作業がまず1点でございます。それからもう一つが総合戦略策定でございます。項目では一緒になっておりますけれども、これから発注形態がどういうふうになるかなんですが、これを人口ビジョンの作業とそれから総合戦略の策定を同時に発注する場合、あるいは人口ビジョンは人口ビジョン、総合戦略は総合戦略としてまた別の発注形態をとる場合もあるかもしれませんが、現時点においては一本ということで、人口ビジョンに基づいた総合戦略を立てるということで業務委託を予定しております。

その地方版総合戦略の策定でございますが、まず国が決めました長期ビジョンに沿いまして、各自治体がこれからどういったことが必要かということの計画づくりを2015年度中にしなさいということです。その長期人口ビジョンは50年後に1億人程度の人口を維持することを目指し、日本の人口動向を分析し、将来展望を示すということの中から、論点としまして先ほど言いました人口の減少と将来展望、そして日本の人口をどう考えるのか、地域の人口をどう考えるのか、人口減少が経済社会に与える影響をどう考えるか、東京一極集中の問題をどう考えるか、あるいは人口減少に歯どめをかけることの意味をどう考えるか、こういったことを総合戦略の争点としているところでございます。

もう一つ、目指すべき将来方向の今後の基本戦略ということで、目指すべき将来方向をどう考えるか、またそれにどう取り組むか、政策目標をどう考えるかでございます。人口減少克服、地方創生に正面から取り組むとともに、地域の特性に即した対応や制度全般の

見直しを進めていく必要があるからでございます。今後この問題にどのような姿勢で臨むべきか、地域住民の参加を得て地域の発意と自主的な取り組みを基本として、国が各地方自治体のほうにこの計画づくり、地方版総合戦略策定を義務づけたものでございまして、町でも来年度、今年度の26年度から27年度の繰り越しになると思いますけれども、早々に業者を委託して、業者の中に策定委員会のようなものをつくりまして計画の策定を進めていきたいと思っております。

したがって、策定に当たっては地域の代表、あるいは専門的知識を持つ方、中には大学の先生等にも入っていただきまして、この策定業務を進めていきたいと思っております。それでできた策定の中から5年間、平成27年も含めて27、28、29、30、31ですか。その5カ年の中で事業を実施していくということがこの総合戦略の中に示していかなければならないということでございます。

議長（近藤 保君） 小池議員。

〔10番 小池春雄君発言〕

10番（小池春雄君） この策定業務というのは、ほとんどが同じ項目について調査をしていくんでしょうけれども、何か私が理解しにくいのは、そうすると同じ業者のところへみんな集まっちゃうような気がするんです。全部同じところへ集まっていっちゃう。そうするとこれだけ1,700もある自治体があって、業者がどれだけいるんだか知りませんが、何かみんな1カ所へ集中しちゃうと、みんな似たようなものができちゃうような気がするんですけれども、そういうところというのはそういう業者が実際にどれだけあって、どういうふうに大学や専門家とかそういう人が関与してくるんだか、ちょっと見えてこないんです。何かこれに委託された業者だけがもうかっちゃうというか、そこのところに仕事が集中しちゃう。ちょっとわかりにくく1カ所に集中しちゃうような懸念があります。

それともう一点ですけれども、プレミアム商品券の発行ということですが、これもその制度そのものはいいんでしょうけれども、これをかえるときに今までですと何回も町もやりましたけれども、健康で足腰の丈夫な人は並べるけれども、買いたい人だけどもうちから出られない人とか、さまざまな人がいます。そうするとどうもそういうのもある階層というんですか、一つのところに集中しちゃうような感じなんですけれども、何とか欲しいよという人のところにそういうものがぜひとも行き渡るような方策を考えてほしいんです。

それともう一点わからないんですけれども、これは恐らく日本中でやりますから、そうすると健脚な人はあっちの市へ行ったり、こっちの町へ行ったり、そっちの村へ行ったりすることが可能なのか、不可能なのか。身分証明でこの人が我が町の町民だということが確認できればその人に渡すことが可能ですけれども、はしっこい人でもいればぐるぐる

るぐる回りますから。そういうことがあってはならないと思うんですけども、そういうことでちゃんと吉岡なら吉岡の地域の人に、また欲しいという人にちゃんとそれが交換できて、そしてはっこい人でくるくる回っていっぱいふやす、ある人は私は10枚も15枚も持っているよということがあると困ると思うので、その辺の配布方法というのはどういうふうに考えているかということもあわせてお尋ねをします。

議長（近藤 保君） 総務政策課長。

〔総務政策課長 森田 潔君発言〕

総務政策課長（森田 潔君） まず1点目の一定の業者に仕事が集中してしまうのではないかと懸念、これは私どもも持っております。日本全国この作業をやっていくと、一気に開始するということになる、それだけのやれる業者がどれくらいあるのか。またあったとしても全国の市町村から請け負うとなると、それに対応できるだけの業者の能力、業者の容量というものがあるのかどうかということが非常に疑問視される場所なんですけれども、これは間違いなく一斉にスタートを切ると思っていますので、これから業者選定あるいは入札方法、こういうものについても十分検討していきたいと、そして策定のほうに進めていきたいというふうに考えております。

議長（近藤 保君） 富岡産業建設課長。

〔産業建設課長 富岡輝明君発言〕

産業建設課長（富岡輝明君） プレミアム商品券の発行事業に関する幾つかの質問でございます。今現在この委託業者であります商工会と詰めて、最終決定はまだされておられませんけれども、まず議員がご指摘の欲しい人のところへちゃんと届くようにしなさいというようなことだと思うんですけども、これにつきましては商品券の案内につきまして、まず申し込みのはがきつきの商品券案内を自治会を通じて全戸に配布をする予定でございます。それからその他関係機関の施設等にもそのチラシを置いておくというような予定にしております。それとこれが購入できる資格ですけども、一応制限は設けてございます。基本的には町内に在住する方ということで、購入制限も1人2口までということで2万円までということでございます。あとは今後、最終的には詰めますけれども、購入制限についても15歳以上、そういうような形の中でいこうかなということは考えております。

あとは申請方法で、今現在これの交付金の全額を充てるということなんですけれども、販売セット価格は7,000セットを予定しております。7,000セットに先ほど言いましたように30%分つきますので、販売総額は7,000万ですけども発行総額は9,100万ということで、30%のついた500券が26枚つづりということで、一般商店券が50%で6,500円分、一般商店と大型店が併用するものを50%ということで、6,500円分をつづりにしたものを販売していくということで、これについては申請を

まず受け付けます。受け付けをして、その7,000セットを超えていくという場合には抽せんをさせていただきます。応募者多数の場合には抽せんをさせていただいて販売を行っていくというような、今のところ基本的な考えはそういうことをございます。実施に向けてはこれからまた詰めていきます。よろしくお願ひします。

議長(近藤 保君) 小池議員。

[10番 小池春雄君発言]

10番(小池春雄君) 足が不自由だとかというような方でも、希望する人が抽せんになるんですけども、その抽せんに当たったらちゃんと。元気な人だけが行けて、そうでない人は行けないというようなことだけはぜひとも避けていただきまして、なるべくひとしく同一の権利が生じるような施策を講じていただきたいと、これはお願ひですので。あらゆるいろんなことを考えて不正がないような形でお願ひしたいと思ひます。

以上です。

議長(近藤 保君) ほかにありませんか。金谷議員。

[2番 金谷重男君発言]

2番(金谷重男君) プレミアム商品券につきましては、以前実施されたわけですけども、今7,000セットと聞きますと世帯数がこのくらいの数かなと思ひます。そうするとまず1セットを各戸で注文を受けるとか、そういう中で残部をまた違ったやり方をするというようなやり方はできないんでしょうか。要するに7,000セットで7,000戸ということですけども、その辺の割り振り方というのはできないんでしょうか。

議長(近藤 保君) 富岡産業建設課長。

[産業建設課長 富岡輝明君発言]

産業建設課長(富岡輝明君) 基本的には、希望者と希望世帯ということも考えたんですけども、全戸配布で世帯のほうには商品の案内は配られます。基本的には不公平が生じないようにということで、いろいろな手だてを考えていきたいと思ひていますが、世帯でしますと把握が難しいというような打ち合わせの中でもありますので、最終的には決定はこれからですけども、基本的には購入者は希望個人の方ということで進めさせていただきますと思ひておひます。

議長(近藤 保君) 金谷議員。

[2番 金谷重男君発言]

2番(金谷重男君) 要するに、希望している家庭は1枚ぐらひはもらえるというふうなやり方のほうがいいかなと。あそこに前も私も一緒に並びましたけれども、かなり列ができて、家族で並んでいる方もおられましたし。だからそういうことで一部に集中するというのも心配になってきますので、7,000セットがうまく希望者に配布できるような工夫を

していただきたいと思います。よろしく申し上げます。

議長（近藤 保君） ほかにございませんか。南雲議員。

〔15番 南雲吉雄君発言〕

15番（南雲吉雄君） ただいま商工会のプレミアム商品券についてのご意見が出ているわけですが、以前にも2回ほど町として発行していただいたわけですが、やはり聞いてやっていただきたいというような要望をしたわけですが、たまたま予算等の関係で休止となったわけですが、先ほど小池議員また金谷議員からも話がありましたように、できればこれは地域の活性化のための国からの補助金でありますので、町内の業者の人たちになるべく購買をしていただくような施策をまたとっていただければありがたいというように思っているんですけれども、その点についてお伺いをしたいと思います。

以前にもやはり町内業者を支援するためにプレミアム商品券を発行したわけですので、今回も国としては地域の創生ということでありますので、やはり地域の商工会の商店に多く行っていただくようにしていただければというように思っております。その点について再度よろしくお願いをいたします。

また、その下にありますぐんま新技術・新製品開発推進費ということで40万円ほどあるわけですが、やはりこの問題について町の中で新しいものに取り組むという大切な理由がありますので、町としてどんな事業に取り組む考えているのか、この点についてもお伺いしたいと思います。

議長（近藤 保君） 富岡産業建設課長。

〔産業建設課長 富岡輝明君発言〕

産業建設課長（富岡輝明君） 町内の一般商店の消費拡大、当然おっしゃるとおり、そのとおりでございます。この問題につきましても商工会とかなり詰めました。結果的には商工会は1,000円券がいいんだということで、要するに販売、扱う枚数が少なくてというようなことだったんですけれども、では果たして1回1,000円券を持って個人商店で1,000円の買い物をどのくらいの町民の方がするんだということで、そういうことでかなり町とせめぎ合いをやりました。その結果、500円から1,000円の間がちょっと行って買い物ができる金額じゃないかと。そうすると1,000円券を出した場合にはお釣りが来ません。ということであれば500円から1,000円の間で500円券を出して700円を買えば200円の小銭が出ていくと。そちらのほうが消費拡大につながるんじゃないかということで、今回は発行枚数がうんとふえますけれども500円という使いやすい金額に設定をさせてもらってそれで発行していくということで、一般個人商店に購入されるお客さんが行っても使いやすい金額ということで設定させてもらっていますので、商店の方にもその辺のご理解をいただきながら消費拡大を図っていきたいと考えております。

それと、ぐんま新技術・新製品開発促進ですけれども、これは町内の中小企業者に公募をかけるつもりでございます。当然そうなんですけれども。それで、これは町が40万、県が40万で自己負担が20万ということで、先ほど財務課長のほうから説明があったんですけれども、そういうような形で今回の場合には県内19市町村が対象になっております。そのうちの吉岡が対象になっておりますけれども、まさしく新技術・新製品開発意欲のある町内の中小企業者に対して助成を行っていくというような形の事業でございます。よろしく申し上げます。

議長（近藤 保君） ほかにございませんか。

南雲議員。

〔15番 南雲吉雄君発言〕

15番（南雲吉雄君） ただいまの答弁で大体わかったわけですが、たまたまけさの新聞でも前橋市で1セット500円の商品券で1万3,000円で売るといような話が出ていたわけですが、やはり今課長から話がありましたように町内の業者が買いやすいという、売りやすいというそういう方法で取り組んでくれるということで、これはすばらしいことだなというふうに考えております。

また、新製品についてはやはりできるだけ新しいものを開発して町の発展につなげていただければありがたいというように思っておりますのでぜひ、ご指導といったことが町の発展になりますので、よろしく願いをいたします。

以上です。

議長（近藤 保君） ほかにございませんか。

〔「なし」の声あり〕

議長（近藤 保君） 質疑なしと認め、質疑を終結します。

ただいま議題となっている議案第36号は、総務常任委員会に付託します。

散 会

議長（近藤 保君） 本日はこれをもって散会といたします。

ご苦労さまでした。

午後3時16分散会

